

5章 防災指針

1) 防災指針とは

(1) 防災指針の目的

近年、全国各地で土砂災害や豪雨による浸水被害などが発生し、生命や財産、社会経済に被害が生じており、今後も気候変動の影響により、自然災害の頻発化・激甚化が懸念されています。特に、水害については、今後のさらなる降水量の増加や海面水位の上昇等により、これまで以上の甚大な被害をもたらす恐れがあります。本市においても、平成20年の浅野川水害をはじめ、近年は豪雨による土砂災害や浸水被害が発生しています。

国では、このような自然災害に対応するため、令和2年に都市再生特別措置法を改正し、総合的な防災・減災対策による安全なまちづくりの推進に向け、立地適正化計画に「防災指針」の記載が位置づけられました。

これらの背景を踏まえ、本計画においても、災害リスクに対する既存の様々な計画（右記参照）等に基づく防災・減災対策に加え、災害リスクの低い区域への居住誘導等の土地利用対策を展開することにより、災害に強く安心して住み続けることができるまちづくりを推進するため、防災指針を位置づけます。

<防災・減災対策に関する計画等>

●市全域を対象、●特定の地区を対象

- 金沢市地域防災計画
- 金沢市国土強靱化地域計画
- 金沢市総合治水対策実施計画
- 流域治水プロジェクト（石川県：犀川水系、大野川水系）
- 金沢市建築物耐震改修促進計画
- 道路除雪計画
- 防災重点ため池に係る工事等推進計画
 - ・ 地区防災計画
 - ・ 重要伝統的建造物群保存地区 防災計画
 - ・ 防災まちづくり協定

<本市の主な災害履歴>

発生年	災害の種類	被害状況
寛文8年 (1668年)	水害 (犀川、浅野川)	(市内)溺死78人、破家223棟
天明3年 (1783年)	水害 (犀川、浅野川)	(市内)溺死500人余
寛政11年 (1799年)	地震 (寛政金沢地震)	(金沢城下)死者15人、 潰家26棟、破損家4,169棟
慶応2年 (1866年)	水害 (犀川、浅野川)	(市内)流失した家屋128棟、浸水3,449棟 (死傷者あり)
昭和6年 (1931年)	水害	(市内)浸水350棟
昭和38年 (1963年)	豪雪 (38豪雪)	(県内)死者24人、負傷者151人 住家全半壊537棟
昭和55-56年 (1980-81年)	豪雪 (56豪雪)	(県内)死者3人、負傷者60人 住家全半壊28棟、一部破損619棟
昭和58年 (1983年)	大雨・強風	(県内)床上浸水2棟、床下浸水242棟 堤防決壊208箇所、道路決壊152箇所 山・がけ崩れ42箇所
平成3年 (1991年)	台風	(県内)死者1人、負傷者54人 全壊7棟、一部損壊11,747棟
平成10年 (1998年)	大雨・強風	(市内)建物半壊4棟、一部損壊1棟 床上浸水128棟、床下浸水450棟 堤防決壊26箇所、市道路肩決壊63箇所
平成16年 (2004年)	大雪	(市内)負傷者22人 住家全半壊2棟
平成20年 (2008年)	集中豪雨 (浅野川水害)	(市内)全半壊11棟、一部破損7棟 床上浸水507棟、床下浸水1,476棟

(堤防越水状況 (浅野川水害))



(土砂災害 (法面崩壊))



出典：石川県災異誌
金沢市地域防災計画を基に作成

(2) 防災指針の基本的な考え方

本市は、日本海から山間部に至る広い市域を有しており、水害や土砂災害、雪害、地震、津波などの複数の災害ハザードが存在し、地域によってその種類や危険性の程度が異なります（詳細は第2章（6）災害の危険性を参照）。また、地域によって人口分布や建物立地状況等が異なることから、地域ごとに災害リスクを分析し、現状の課題を適切に把握・整理した上で、リスクの低減に向けた対策を計画的に推進する必要があります。

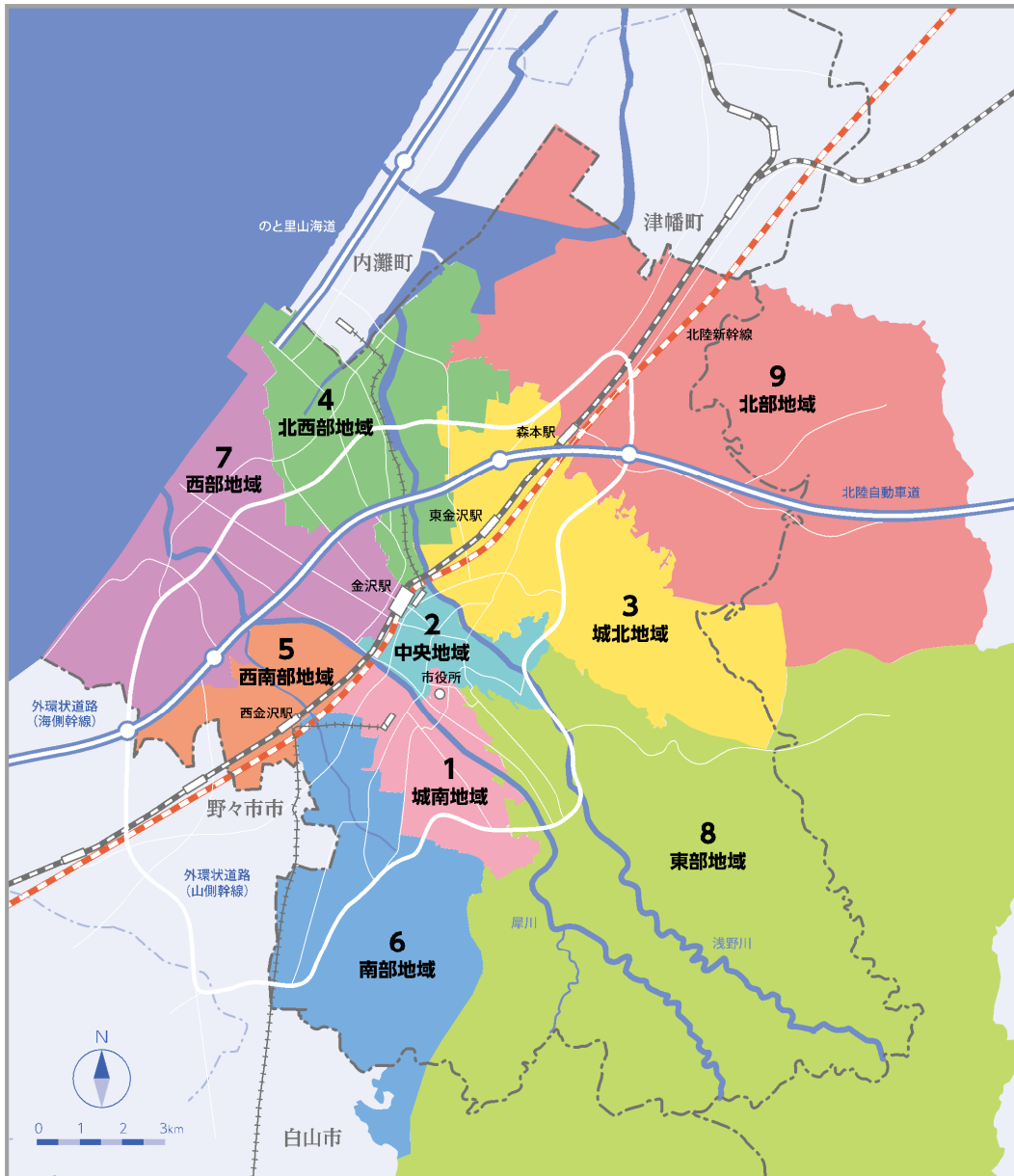
本市では、これらの災害リスクに対して、これまでも様々な防災・減災対策を行ってまいりましたが、現時点においても市内の広い範囲に地震や水害等の災害リスクが残存しています。また、重要伝統的建造物群保存地区・こまちなみ保存区域などの藩政期から続く歴史的風致を有する区域及び商業・業務などの都市機能の中核を担うまちなか区域等については、本市のまちづくりの核として、今後も居住や都市機能の誘導が必要であることから、家屋倒壊等氾濫想定区域を居住誘導区域に含めることとしています。そのため、残存する災害リスクに対して、「人命を守る」ことを最優先にしつつ、できる限り財産の被害を軽減するよう、自助・共助・公助の考え方にに基づき、行政・市民・事業者が連携し、災害レジリエンス（災害対応力）の強化に向け、ハード・ソフトの両面からリスクの低減に向けた各種対策を展開します。

<災害の種類と対応方針>

災害の種類				リスクの低減に向けた主な対策	
				ハード	ソフト
水害	外水	洪水浸水 想定区域	想定最大規模 計画規模	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備、堤防強化 雨水貯留施設の整備 雨水幹線、管渠の整備 民間建築物への雨水貯留、浸透施設の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 農地や緑地、里山の保全・活用、遊休農地の解消 情報把握（水位監視） ダムの事前放流
		家屋倒壊等氾濫想定区域 （氾濫流、河岸浸食）			
	内水	浸水実績（H20年以降）			
土砂災害	急傾斜地崩壊危険区域 地すべり防止区域 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域			<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害対策事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> パトロールによる状況把握・対策検討
雪害	なだれ危険箇所			—	<ul style="list-style-type: none"> パトロールによる状況把握・対策検討
地震	地震被害想定（震度、液状化）			<ul style="list-style-type: none"> 住宅、施設の耐震改修促進 無電柱化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 家具の転倒防止等の減災化の促進
津波	津波浸水想定区域			—	<ul style="list-style-type: none"> 情報把握（水位監視）
全ての災害	—			—	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ハザードマップの作成・周知 地区防災計画の作成 地域特性に応じた防災訓練の実施 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 災害時等協力事業所の登録 避難情報の発信

2) 地域別の災害リスクと防災・減災対策

地域区分は、小学校下を基本とした町会連合会の9ブロックと同じ9地域に分類し、各地域の課題を把握・整理するとともに、防災・減災対策を検討します。



<地域区分>

地域	校下（地区名）
① 城南	野町、弥生、中村町、十一屋、泉野、長坂台、新竪町、菊川
② 中央	材木、味噌蔵、長町、松ヶ枝、長土塀、芳齋、此花、瓢箪
③ 城北	馬場、浅野町、森山、小坂、干坂、夕日寺
④ 北西部	諸江、浅野川、鞍月、栗崎、川北、大浦
⑤ 西南部	米丸、新神田、押野、西南部、三和
⑥ 南部	三馬、米泉、富樫、伏見台、額、四十万、扇台
⑦ 西部	長田町、戸板、西、二塚、安原、大徳、金石町、大野町
⑧ 東部	小立野、崎浦、内川、犀川、湯涌、田上、東浅川、俵、医王山
⑨ 北部	森本、花園、湖南、薬師谷、三谷

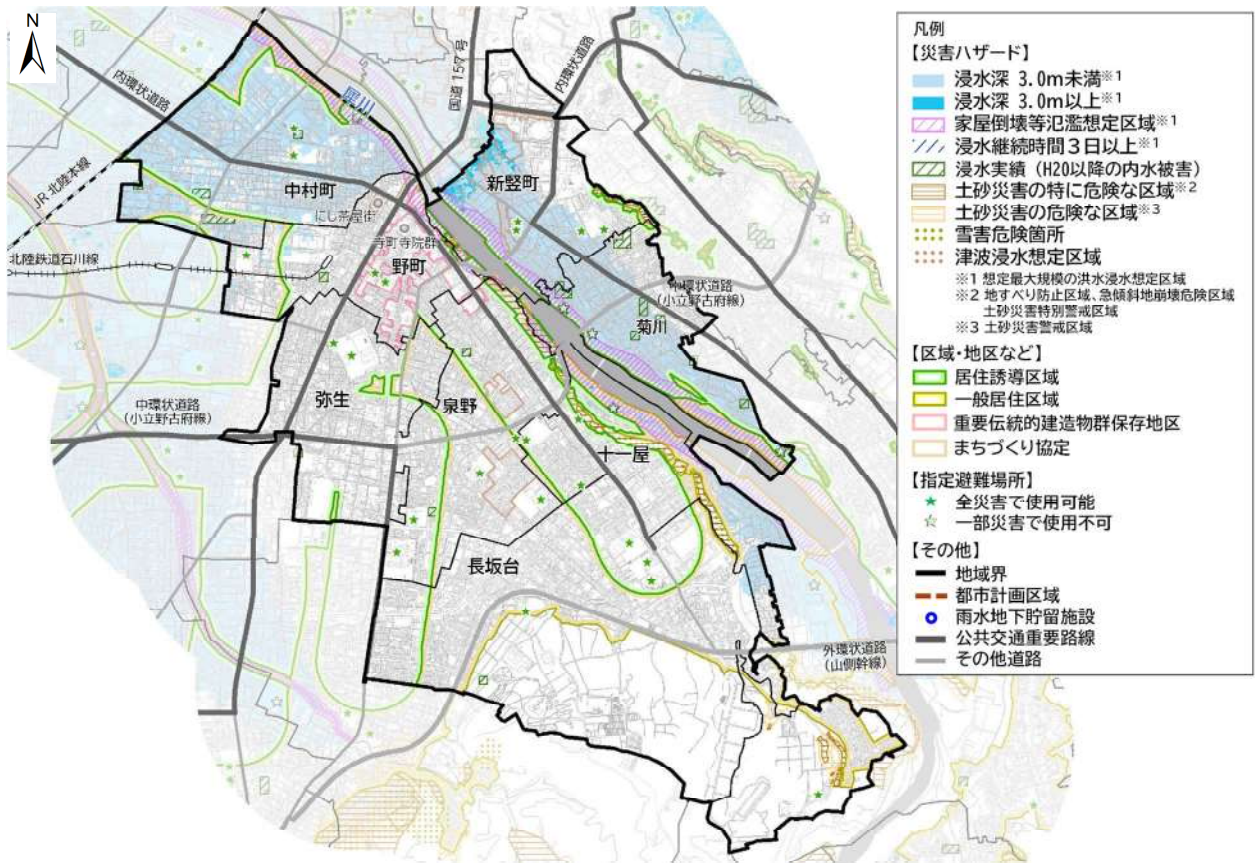
① 城南地域

災害リスク

城南地域は、にし茶屋街や寺町寺院群等の歴史文化資産が集積するほか、本市の賑わいと活力の中心である中心市街地地区の一部が存在しています。

一方、犀川沿岸の居住誘導区域では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域等氾濫想定区域が存在するほか野田山や寺町台などの斜面では土砂災害の危険エリアである急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。

そのため、これまでに犀川の河川整備や防災訓練の継続的な実施などの取組を行ってきましたが、土砂災害対策事業が必要な箇所や地区防災計画が未作成の地区があるほか、居住誘導区域内に家屋倒壊のリスクが残存し、まちなかには耐震性能を満たさない建物が多く残っています。



災害の種類		災害リスク	
水害	外水	計画規模 (浸水深 3m 以上)	0ha 犀川右岸側では浸水深 3m 以上
	内水	想定最大規模 (浸水深 3m 以上)	6ha 犀川沿岸
		家屋倒壊等氾濫想定区域	47ha 菊川地区、中村町校下等
土砂災害	内水	浸水実績	あり
		急傾斜地崩壊危険区域	13ha 十一屋校下等
		地すべり防止区域	—
		土砂災害特別警戒区域	4ha
雪害	内水	土砂災害警戒区域	22ha
		なだれ危険箇所	あり
地震	震度	6強	全域
津波	津波浸水想定区域	—	

これまでの取組状況 (○実施済み、●未実施あり)	
ハード対策	○河川整備…整備済み (犀川)
	○堤防天端舗装…整備済み
ソフト対策	●土砂災害対策事業…整備中 (急傾斜地：法島町、大桑町)
	○防災訓練…実施済み(継続)
ソフト対策	●地区防災計画…4地区で作成済み (弥生、菊川、長坂台、新墅町)
	○重要伝統的建造物群保存地区防災計画…寺町台地区で作成済み
	●災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外 (家屋倒壊等氾濫想定区域が一部残存)

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、土砂災害対策事業の実施や住宅の耐震化などのハード整備によるリスクの低減を図ります。また、居住誘導区域内に残存する災害リスクに対しては、防災計画の作成やまちづくり協定などの既存のコミュニティ活動の充実により、災害リスクに対する知識と心構えを共有することで市民の防災意識を高め、リスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策	実施主体			
			行政	市民	事業者	
水害	○犀川沿岸に浸水深3m以上のエリア*が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○老朽化対策（三ヶ用水堰） ○管理用通路等の整備 ○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視）	●		
	○犀川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト	○情報把握（水位監視） ○重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実 ○水害に強い防災まちづくり協定の締結 ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充	●	●	
		ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	○土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要（十一屋校下等）	ハード	○土砂災害対策事業の実施（急傾斜地：法島町、大桑）	●		
		ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討	●		
雪害	○なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要（十一屋校下等） ○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	●
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要 ○緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路閉塞が懸念され、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○耐震診断の実施（緊急輸送道路沿道建築物） ○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	—	—	—			
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（4地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

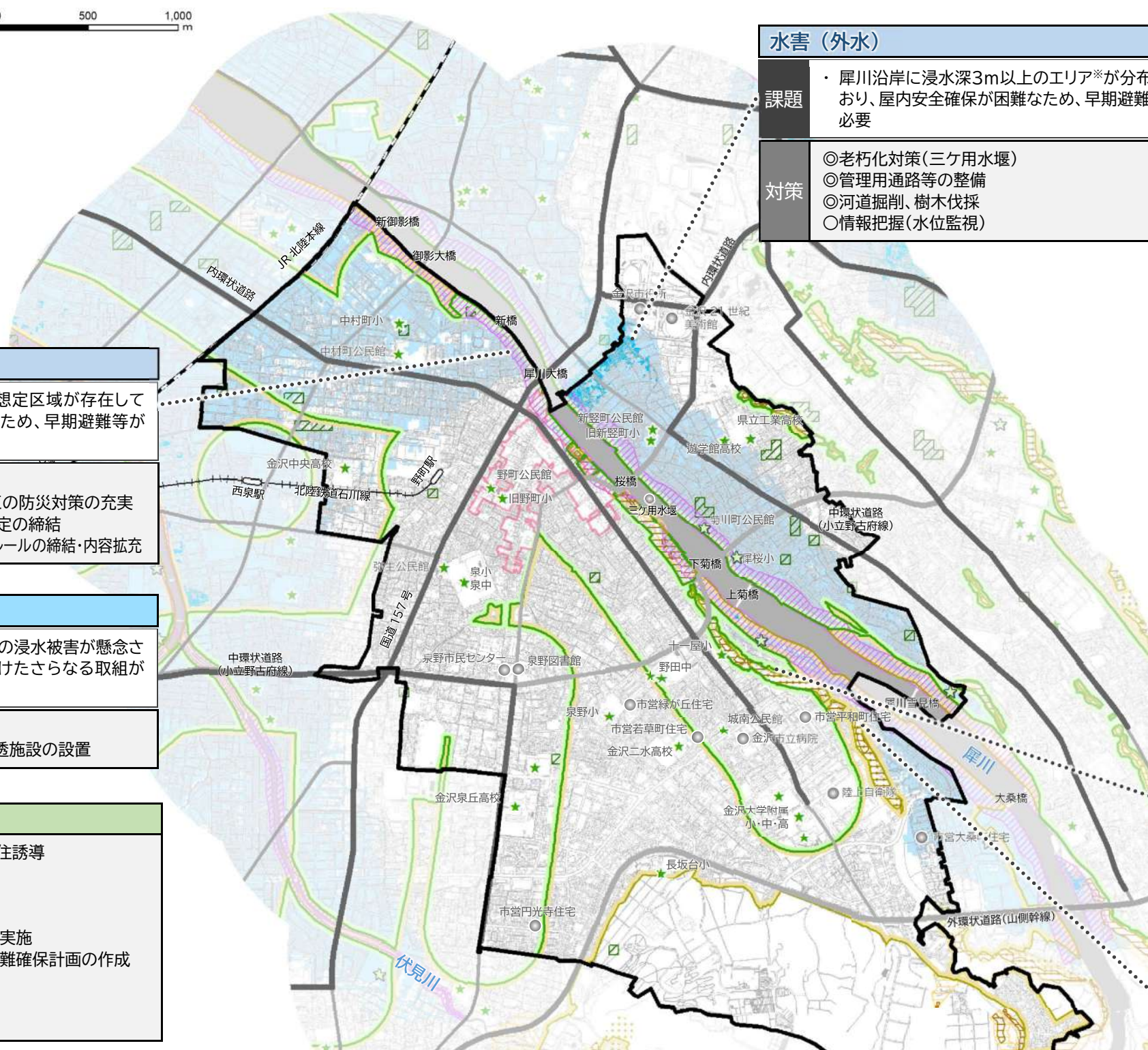
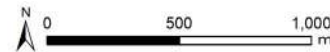
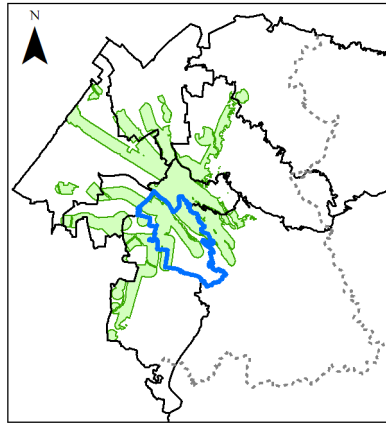
*浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

城南地域

校下(地区)名：野町・弥生・中村町・十一屋・泉野・長坂台・新野町・菊川

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



水害(外水)

課題

- ・ 犀川沿岸に浸水深3m以上のエリア*が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策

- ◎老朽化対策(三ヶ用水堰)
- ◎管理用通路等の整備
- ◎河道掘削、樹木伐採
- 情報把握(水位監視)

水害(外水)

課題

- ・ 犀川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策

- 情報把握(水位監視)
- 重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実
- 水害に強い防災まちづくり協定の締結
- 早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充

水害(内水)

課題

- ・ 激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要

対策

- ◎雨水幹線・管渠の整備
- ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

全ての災害

対策

- 災害リスクの低い区域への居住誘導
- ハザードマップの作成・周知
- 自主防災組織の結成
- 地区防災計画の作成(4地区)
- 地域特性に応じた防災訓練の実施
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成
- 災害時等協力事業所の登録
- 防災知識の普及と意識啓発
- 避難情報の発信

誘導区域等に含まない区域

- ・ 土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
- ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

地震

課題

- ・ 耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要
- ・ 緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路閉塞が懸念され、耐震化が必要

対策

- ◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進
- 耐震診断の実施(緊急輸送道路沿道建築物)
- 安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

凡例

【災害ハザード】

- 浸水深 3.0m未満*1
- 浸水深 3.0m以上*1
- 家屋倒壊等氾濫想定区域*1
- 浸水継続時間3日以上*1
- 浸水実績(H20以降の内水被害)
- 土砂災害の特に危険な区域*2
- 土砂災害の危険な区域*3
- 雪害危険箇所
- 津波浸水想定区域

*1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
*2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
*3 土砂災害警戒区域

【区域・地区など】

- 居住誘導区域
- 一般居住区域
- 重要伝統的建造物群保存地区

【指定避難場所】

- ★ 全災害で使用可能
- ☆ 一部災害で使用不可

【その他】

- 地域界
- 都市計画区域
- 雨水地下貯留施設
- 公共交通重要路線
- その他道路

【対策】

- ◎ ハード対策
- ソフト対策

土砂災害

課題

- ・ 土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要(十一屋校下等)

対策

- ◎土砂対策事業の実施(急傾斜地:法島町、大桑)
- パトロールによる状況把握・対策検討

雪害

課題

- ・ なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要(十一屋校下等)
- ・ 幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要

対策

- パトロールによる状況把握・対策検討
- 道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知
- 防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

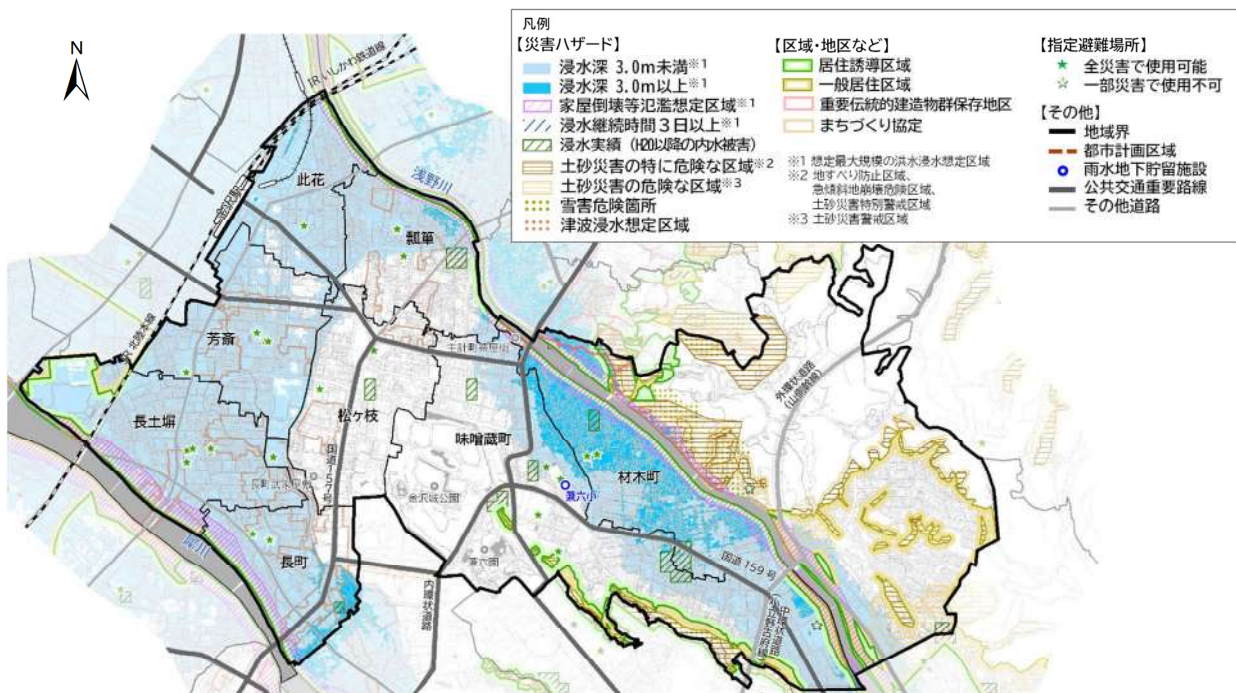
② 中央地域

災害リスク

中央地域は、主計町茶屋街や長町武家屋敷跡、金沢城公園、兼六園等の歴史文化資産が集積するほか、本市の賑わいと活力の中心である中心市街地地区や、交通結節点である金沢駅など、歴史都市金沢の中心となる区域です。

一方、犀川・浅野川沿岸の居住誘導区域では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、卯辰山や小立野台地等の斜面では土砂災害の危険エリアである急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。

そのため、これまでに犀川・浅野川の河川整備や雨水貯留施設の整備のほか、重要伝統的建造物群保存地区防災計画の作成や防災まちづくり協定の締結などの取組を行ってきましたが、土砂災害対策事業が必要な箇所や地区防災計画が未作成の地区があるほか、居住誘導区域内には家屋倒壊のリスクが残存し、まちなかには耐震性能を満たさない建物が多く残っています。



災害の種類			災害リスク
水害	外水	計画規模（浸水深3m以上）	0ha
		想定最大規模（浸水深3m以上）	53ha
	内水	家屋倒壊等氾濫想定区域	38ha
土砂災害	内水	浸水実績	あり
		急傾斜地崩壊危険区域	20ha
		地すべり防止区域	7ha
		土砂災害特別警戒区域	12ha
雪害	内水	土砂災害警戒区域	57ha
		なだれ危険箇所	あり
地震	震度	6強	全域
津波	津波浸水想定区域	—	

これまでの取組状況（○実施済み、●未実施あり）	
ハード対策	○河川整備…整備済み（犀川・浅野川）
	○堤防天端舗装…整備済み
ソフト対策	○雨水貯留施設…整備済み（兼六小学校）
	●土砂災害対策事業… 整備中（急傾斜：鈴見台、砂防：常盤川） 整備予定（急傾斜：常盤町）
ソフト対策	○防災訓練…実施済み（継続）
	●地区防災計画…4地区で作成済み（材木、味噌蔵、此花、瓢箪）
	○重要伝統的建造物群保存地区防災計画…主計町、卯辰山麓で作成済み
	○防災まちづくり協定…横山町で締結済み
ソフト対策	●災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外（家屋倒壊等氾濫想定区域が一部残存）

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、土砂災害対策事業の実施や住宅の耐震化などのハード整備によるリスクの低減を図ります。また、居住誘導区域内に残存する災害リスクに対して、防災計画の作成やまちづくり協定などの既存のコミュニティ活動の充実により、災害リスクに対する知識と心構えを共有することで市民の防災意識を高め、リスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策		実施主体		
				行政	市民	事業者
水害	○犀川・浅野川沿岸に浸水深3m以上のエリア※が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○老朽化対策（犀川転倒堰） ○管理用通路等の整備 ○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視）	●		
	○犀川・浅野川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト	○情報把握（水位監視） ○重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実 ○水害に強い防災まちづくり協定の締結・内容拡充 ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充	●	●	
	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	○土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要（材木、味噌蔵地区）	ハード	○土砂災害対策事業の実施（急傾斜：常盤町、鈴見台、砂防：常盤川）	●		
		ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討	●		
雪害	○なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要（材木、味噌蔵地区） ○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	●
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要 ○緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路閉塞が懸念され、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○耐震診断の実施（緊急輸送道路沿道建築物） ○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	—	—	—			
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（4地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

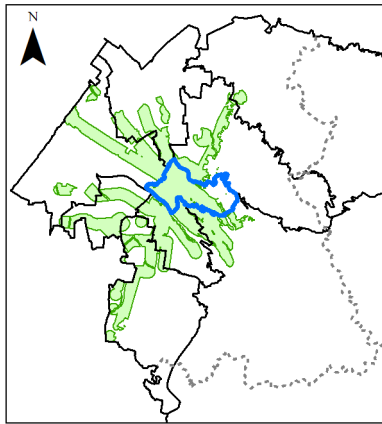
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

中央地域

校下(地区)名: 材木・味噌蔵・長町・松ヶ枝・長土堀・芳斎・此花・瓢箪

災害の種類

- 水害(外水)
- 水害(内水)
- 津波
- 土砂災害
- 地震
- 雪害



全ての災害

対策

- 災害リスクの低い区域への居住誘導
- ハザードマップの作成・周知
- 自主防災組織の結成
- 地区防災計画の作成(4地区)
- 地域特性に応じた防災訓練の実施
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成
- 災害時等協力事業所の登録
- 防災知識の普及と意識啓発
- 避難情報の発信

水害(内水)

課題

- ・激化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要

対策

- ◎雨水幹線・管渠の整備
- ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

水害(外水)

課題

- ・犀川・浅野川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策

- 情報把握(水位監視)
- 重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実
- 水害に強い防災まちづくり協定の締結・内容拡充
- 早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充

誘導区域等に含まない区域

- ・土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

水害(外水)

課題

- ・犀川・浅野川沿岸に浸水深3m以上のエリア*が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策

- ◎老朽化対策(犀川転倒堰)
- ◎管理用通路等の整備
- ◎河道掘削、樹木伐採
- ◎情報把握(水位監視)

地震

課題

- ・耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要
- ・緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路閉塞が懸念され、耐震化が必要

対策

- ◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進
- ◎耐震診断の実施(緊急輸送道路沿道建築物)
- ◎安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

凡例

【災害ハザード】

- 浸水深 3.0m未満*1
- 浸水深 3.0m以上*1
- 家屋倒壊等氾濫想定区域*1
- 浸水継続時間3日以上*1
- 浸水実績(H20以降の内水被害)
- 土砂災害の特に危険な区域*2
- 土砂災害の危険な区域*3
- 雪害危険箇所
- 津波浸水想定区域

※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
 ※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
 ※3 土砂災害警戒区域

【区域・地区など】

- 居住誘導区域
- 一般居住区域
- 重要伝統的建造物群保存地区

【指定避難場所】

- ★ 全災害で使用可能
- ☆ 一部災害で使用不可

【その他】

- 地域界
- 都市計画区域
- 雨水地下貯留施設
- 公共交通重要路線
- その他道路

【対策】

- ◎ ハード対策
- ソフト対策

土砂災害

課題

- ・土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要(材木、味噌蔵地区)

対策

- ◎土砂災害対策事業の実施(急傾斜地:常盤町・鈴見台、砂防:常盤川)
- パトロールによる状況把握・対策検討

雪害

課題

- ・なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要(材木、味噌蔵地区)
- ・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要

対策

- パトロールによる状況把握・対策検討
- 道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知
- 防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

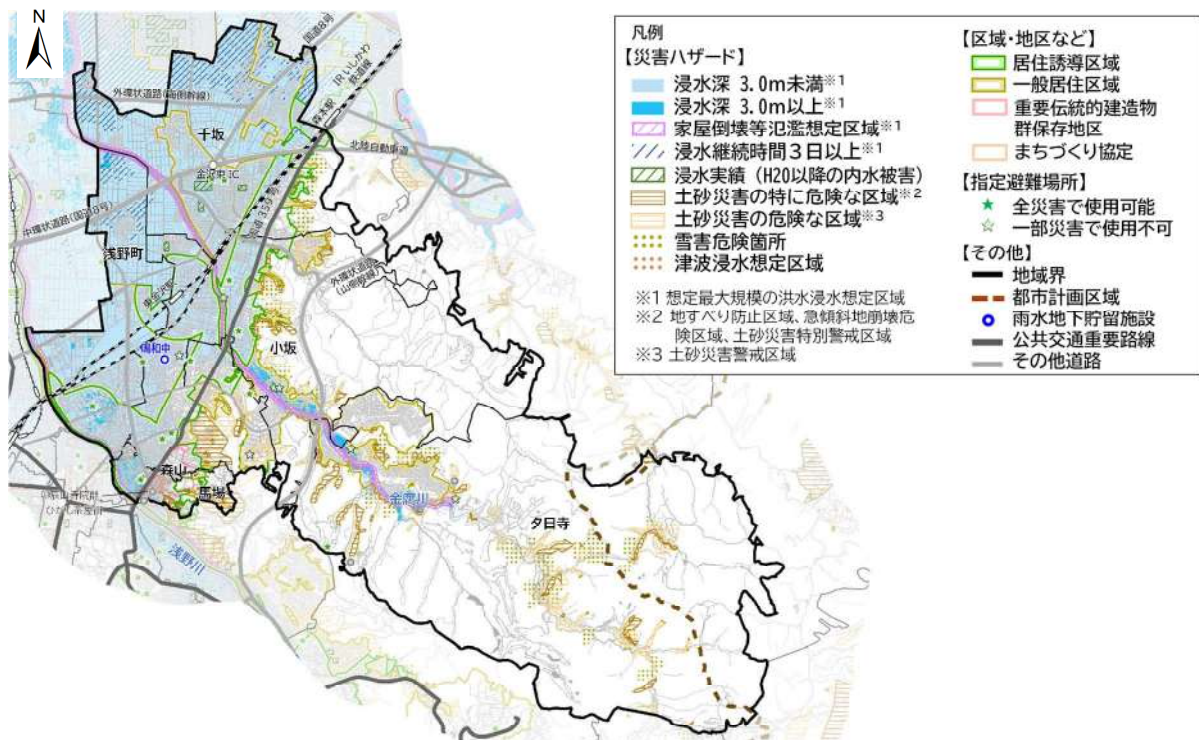
③ 城北地域

災害リスク

城北地域は、ひがし茶屋街や卯辰山山麓寺院群等の歴史文化資産が集積するほか、東金沢駅周辺は交流と賑わいの創出を図る地域拠点として位置づけられています。

一方、浅野川や金腐川沿岸の居住誘導区域では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、卯辰山周辺や東部丘陵などの斜面では土砂災害の危険エリアである地すべり防止区域や土砂災害警戒区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。

そのため、これまでに浅野川・金腐川等の河川整備や雨水貯留施設の整備のほか、重要伝統的建造物群保存地区防災計画の作成や防災まちづくり協定の締結などの取組を行ってきましたが、土砂災害対策事業が必要な箇所があるほか、居住誘導区域内には家屋倒壊のリスクが残存し、まちなかには耐震性能を満たさない建物が多く残っています。



災害の種類			災害リスク
水害	外水	計画規模 (浸水深 3m 以上)	0ha
		想定最大規模 (浸水深 3m 以上)	52ha
	内水	家屋倒壊等氾濫想定区域	40ha
土砂災害	内水	浸水実績	あり
		急傾斜地崩壊危険区域	7ha
		地すべり防止区域	26ha
		土砂災害特別警戒区域	37ha
雪害	内水	土砂災害警戒区域	214ha
		なだれ危険箇所	あり
地震	震度	6強	全域
津波	津波浸水想定区域	—	

これまでの取組状況 (○実施済み、●未実施あり)	
ハード対策	○河川整備…整備済み (浅野川等) 当面の整備目標を満足 (金腐川等)
	○堤防天端舗装…整備済み
	○雨水貯留施設…整備済み (鳴和中学校)
	●土砂災害対策事業…整備中 (急傾斜: 神谷内、百坂町、法光寺町、砂防: 御所川、山王川、神谷内川)
ソフト対策	○防災訓練…実施済み (継続)
	○地区防災計画…全6地区で作成済み (馬場、浅野町、森山、小坂、千坂、夕日寺)
	○重要伝統的建造物群保存地区防災計画…東山ひがし地区、卯辰山麓地区で作成済み
	○防災まちづくり協定計画…森山地区で締結済み
	●災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外 (家屋倒壊等氾濫想定区域が一部残存)

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、土砂災害対策事業の実施や住宅の耐震化などのハード整備によるリスクの低減を図ります。また、居住誘導区域内に残存する災害リスクに対して、防災計画の作成やまちづくり協定などの既存のコミュニティ活動の充実により、災害リスクに対する知識と心構えを共有することで市民の防災意識を高め、リスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策		実施主体		
				行政	市民	事業者
水害	・浅野川や金腐川沿岸に浸水深3m以上のエリア*や浸水継続時間が3日以上エリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難が必要	ハード	○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視） ○農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消 ○緊急物資等の確保・備蓄	●	●	
	ソフト	○情報把握（水位監視） ○重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実 ○水害に強い防災まちづくり協定の締結・内容拡充 ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充	●	●	●	
内水	・激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	・土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要（小坂、千坂、馬場、森山、夕日寺校下）	ハード	○土砂災害対策事業の実施（急傾斜地：神谷内町、百坂町、法光寺町 砂防：御所川、山王川、神谷内川）	●		
		ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討	●		
雪害	・なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要（小坂、千坂、夕日寺校下） ・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	
地震	・耐震性を満たさない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要 ・緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路閉塞が懸念され、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○耐震診断の実施（緊急輸送道路沿道建築物） ○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	—	—	—			
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の更新・周知 ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

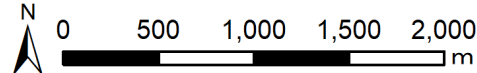
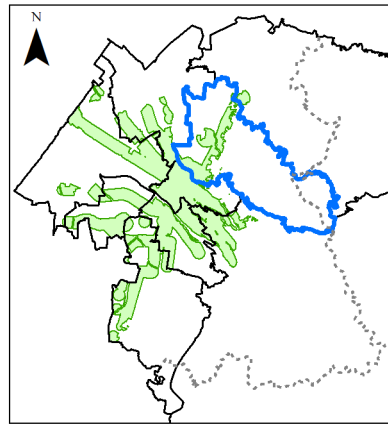
*浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

城北地域

校下(地区)名：馬場・浅野町・森山・小坂・千坂・夕日寺

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



水害(外水)

課題

- 浅野川や金腐川沿岸に浸水継続時間が3日以上^{※1}のエリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難が必要

対策

- 緊急物資等の確保・備蓄

水害(外水)

課題

- 浅野川や金腐川沿岸に浸水深3m以上のエリア^{※2}が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難が必要

対策

- ◎河道掘削、樹木伐採
- 情報把握(水位監視)
- 農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消

水害(外水)

課題

- 浅野川や金腐川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難が必要

対策

- 情報把握(水位監視)
- 重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実
- 水害に強い防災まちづくり協定の締結・内容拡充
- 早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充

誘導区域等に含まない区域

- ・土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

地震

課題

- ・耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要
- ・緊急輸送道路沿道建築物の倒壊による道路閉塞が懸念され、耐震化が必要

対策

- ◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進
- 耐震診断の実施(緊急輸送道路沿道建築物)
- 安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

雪害

課題

- ・なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要(小坂、千坂、夕日寺校下)
- ・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要

対策

- パトロールによる状況把握・対策検討
- 道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知
- 防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

土砂災害

課題

- ・土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要(小坂、千坂、馬場、森山、夕日寺校下)

対策

- ◎土砂災害対策事業の実施(急傾斜地：神谷内町、百坂町、法光寺町砂防：御所川、山王川、神谷内川)
- パトロールによる状況把握・対策検討

凡例

【災害ハザード】

- 浸水深 3.0m未満^{※1}
- 浸水深 3.0m以上^{※1}
- 家屋倒壊等氾濫想定区域^{※1}
- 浸水継続時間3日以上^{※1}
- 浸水実績(H20以降の内水被害)
- 土砂災害の特に危険な区域^{※2}
- 土砂災害の危険な区域^{※3}
- 雪害危険箇所
- 津波浸水想定区域

※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
 ※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
 ※3 土砂災害警戒区域

【区域・地区など】

- 居住誘導区域
- 一般居住区域
- 重要伝統的建造物群保存地区

【指定避難場所】

- ★ 全災害で使用可能
- ☆ 一部災害で使用不可

【その他】

- 地域界
- 都市計画区域
- 雨水地下貯留施設
- 公共交通重要路線
- その他道路

【対策】

- ◎ ハード対策
- ソフト対策

全ての災害

対策

- 災害リスクの低い区域への居住誘導
- ハザードマップの作成・周知
- 自主防災組織の結成
- 地区防災計画の更新・周知
- 地域特性に応じた防災訓練の実施
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成
- 災害時等協力事業所の登録
- 防災知識の普及と意識啓発
- 避難情報の発信

水害(内水)

課題

- ・激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要

対策

- ◎雨水幹線・管渠の整備
- ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

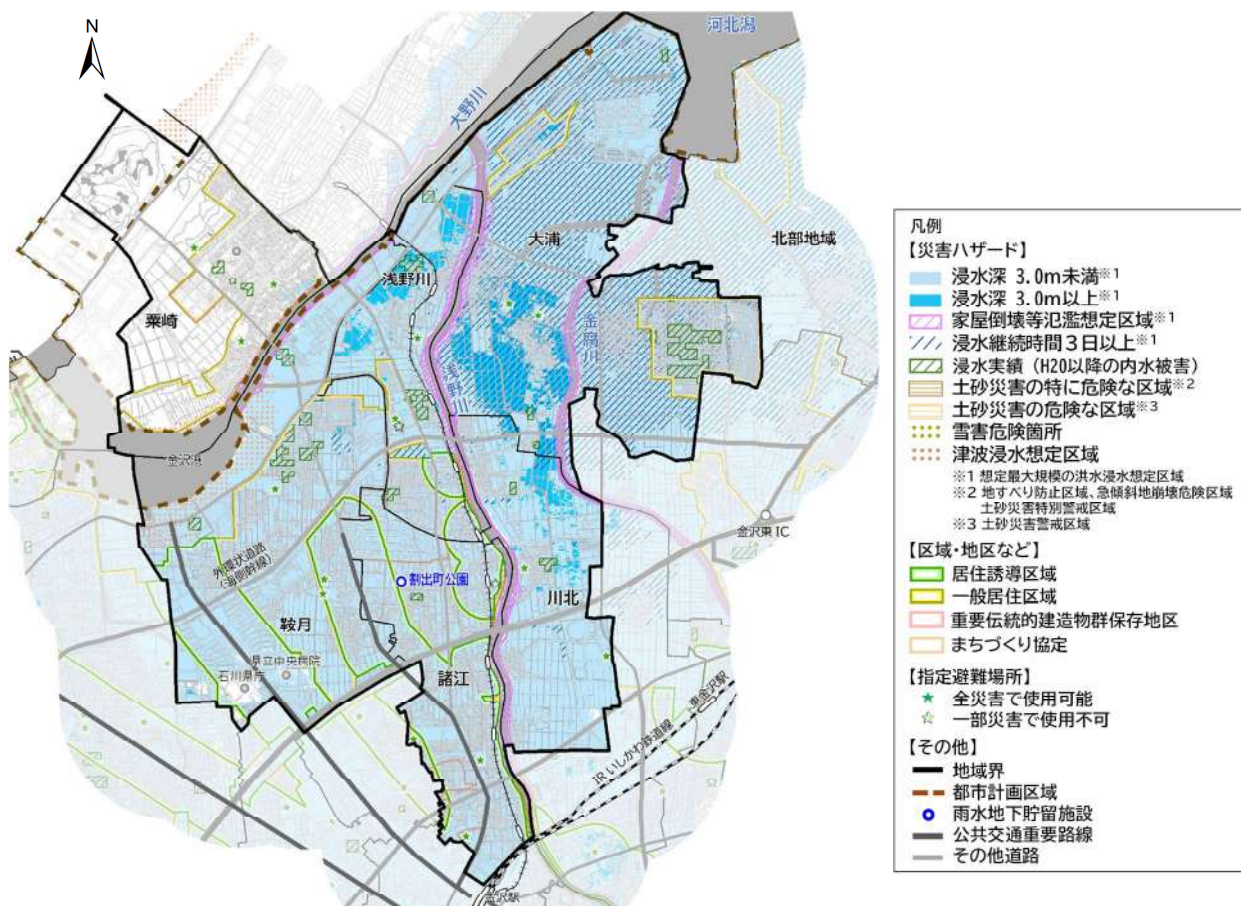
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

④ 北西部地域

災害リスク

北西部地域は、都心軸沿線に石川県庁や県立中央病院、金沢港などの主要な都市機能が集積するほか、良好な住環境や田園風景が広がっています。

一方、浅野川や金腐川、大野川等の沿岸では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、長期間にわたり浸水が継続する区域が面的に広がっています。また、金沢港や大野川沿岸の標高の低い箇所では津波による浸水が想定される区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。そのため、これまでに浅野川等の一部河川や雨水貯留施設の整備のほか、防災訓練の継続的な実施などの取組を行ってきましたが、大野川・弓取川等の河川において整備が必要な箇所があり、また、地区防災計画が未作成の地区があります。



災害の種類		災害リスク		
水害	外水	計画規模 (浸水深 3m 以上)	1ha	金腐川左岸側等では浸水深 3m 以上
		想定最大規模 (浸水深 3m 以上)	98ha	
		家屋倒壊等氾濫想定区域	54ha	
	内水	浸水実績	あり	大浦校下、鞍月校下等
土砂災害		急傾斜地崩壊危険区域	—	
		地すべり防止区域	—	
		土砂災害特別警戒区域	—	
		土砂災害警戒区域	—	
雪害		なだれ危険箇所	—	
地震		震度	6強	全域
津波		津波浸水想定区域	あり	浸水深 1~3m未滿

これまでの取組状況 (○実施済み、●未実施あり)	
ハード対策	●河川整備…整備済み (浅野川) 整備中 (大野川、弓取川、大宮川、馬渡川)
	○堤防天端舗装…整備済み
ソフト対策	●雨水貯留施設…整備済み (割出町公園) 整備予定 (城北市民テニスコート)
	○防災訓練…実施済み(継続)
	●地区防災計画…5地区で作成済み (諸江、浅野川、鞍月、粟崎、川北)
	○災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、河川整備や雨水貯留施設の整備等のハード整備によるリスクの低減を図ります。また、残存する災害リスクに対して、防災計画の作成などのソフト対策の充実によりリスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策	実施主体			
			行政	市民	事業者	
水害	○浅野川、金廣川、大野川沿岸に浸水深3m以上のエリア※や浸水継続時間が3日以上エリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○河川整備（大野川、弓取川、大宮川、馬渡川） ○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視） ○農地や緑の保全・活用、遊休農地の解消 ○緊急物資等の確保・備蓄	●	●	
	○浅野川、金廣川、大野川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト	○情報把握（水位監視） ○水害に強い防災まちづくり協定の締結 ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充	●	●	
	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○雨水貯留施設の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	—	—				
雪害	○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	○金沢港や大野川沿岸の標高の低い箇所浸水エリアがあり、家屋等の浸水被害が懸念され、浸水被害の低減への取組が必要	ソフト	○情報把握（水位監視）	●		
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（1地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

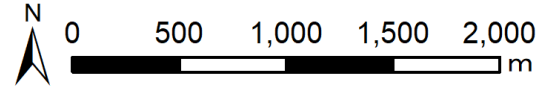
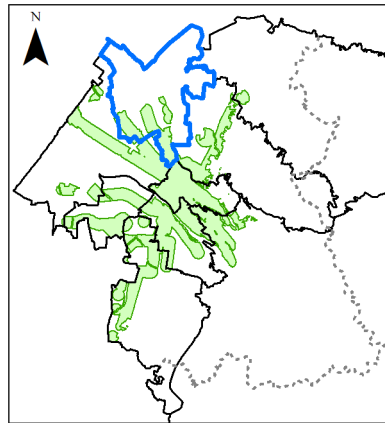
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

北西部地域

校下(地区)名：諸江・浅野川・鞍月・栗崎・川北・大浦

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



水害(内水)	
課題	・激化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要
対策	◎雨水幹線・管渠の整備 ◎雨水貯留施設の整備 ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

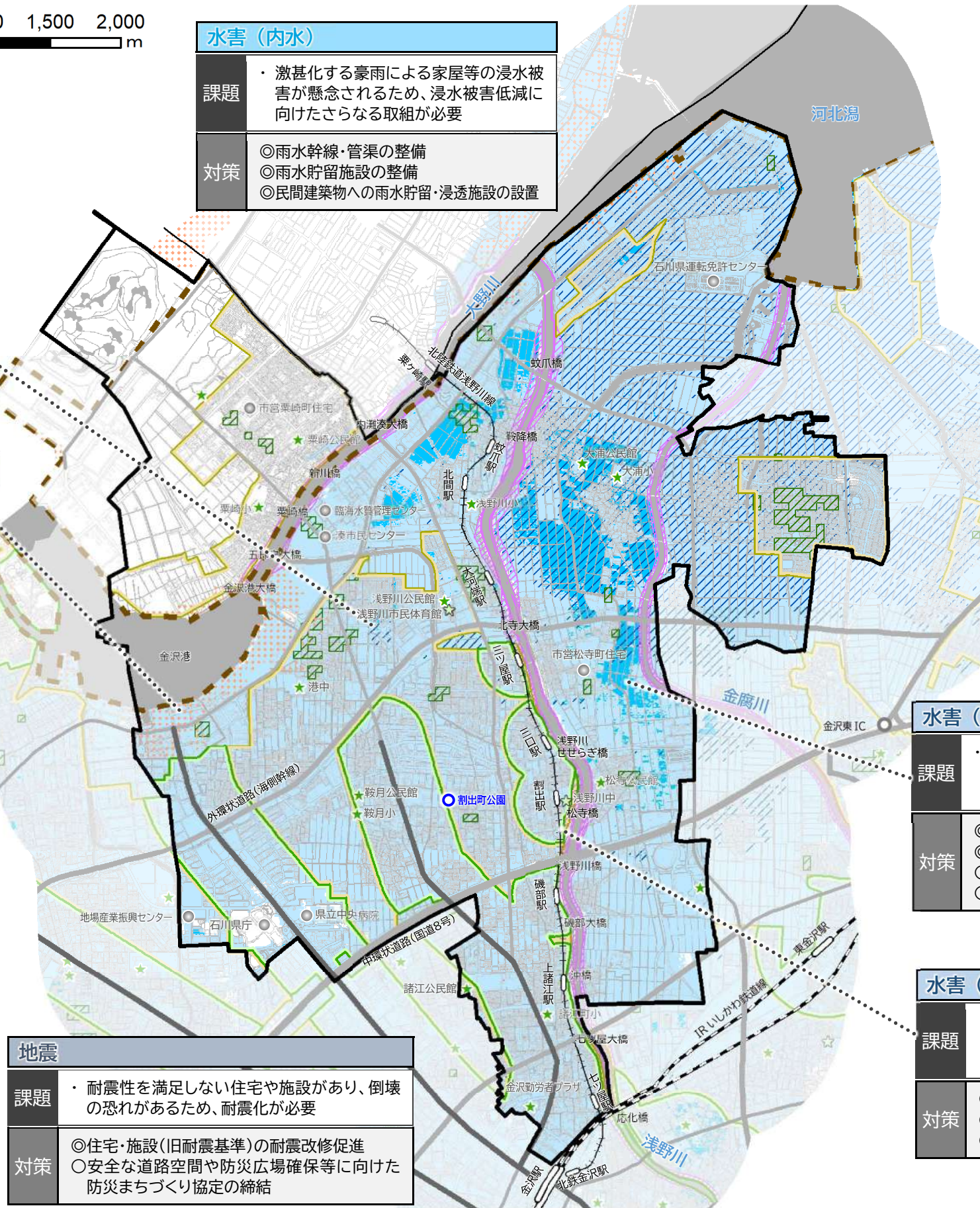
水害(外水)	
課題	・浸水継続時間が3日以上エリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	◎緊急物資等の確保・備蓄

津波	
課題	・金沢港や大野川沿岸の標高の低い箇所浸水エリアがあり、家屋等の浸水被害が懸念され、浸水被害の低減への取組が必要
対策	◎情報把握(水位監視)

全ての災害	
対策	◎災害リスクの低い区域への居住誘導 ◎ハザードマップの作成・周知 ◎自主防災組織の結成 ◎地区防災計画の作成(1地区) ◎地域特性に応じた防災訓練の実施 ◎要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ◎災害時等協力事業所の登録 ◎防災知識の普及と意識啓発 ◎避難情報の発信

雪害	
課題	・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要
対策	◎道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ◎防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

誘導区域等に含まない区域
 ・土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
 ・家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)



凡例	
【災害ハザード】	
■	浸水深 3.0m未満※1
■	浸水深 3.0m以上※1
■	家屋倒壊等氾濫想定区域※1
■	浸水継続時間3日以上※1
■	浸水実績(H20以降の内水被害)
■	土砂災害の特に危険な区域※2
■	土砂災害の危険な区域※3
■	雪害危険箇所
■	津波浸水想定区域
※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域 ※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域 ※3 土砂災害警戒区域	
【区域・地区など】	
■	居住誘導区域
■	一般居住区域
【指定避難場所】	
★	全災害で使用可能
★	一部災害で使用不可
【その他】	
—	地域界
—	都市計画区域
●	雨水地下貯留施設
—	公共交通重要路線
—	その他道路
【対策】	
◎	ハード対策
○	ソフト対策

水害(外水)	
課題	・浅野川、金腐川、大野川沿岸に浸水深3m以上のエリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	◎河川整備(大野川、弓取川、大宮川、馬渡川) ◎河道掘削、樹木伐採 ◎情報把握(水位監視) ◎農地や緑の保全・活用、遊休農地の解消

水害(外水)	
課題	・浅野川、金腐川、大野川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	◎情報把握(水位監視) ◎水害に強い防災まちづくり協定の締結 ◎早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充

地震	
課題	・耐震性を満たさない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要
対策	◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進 ◎安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

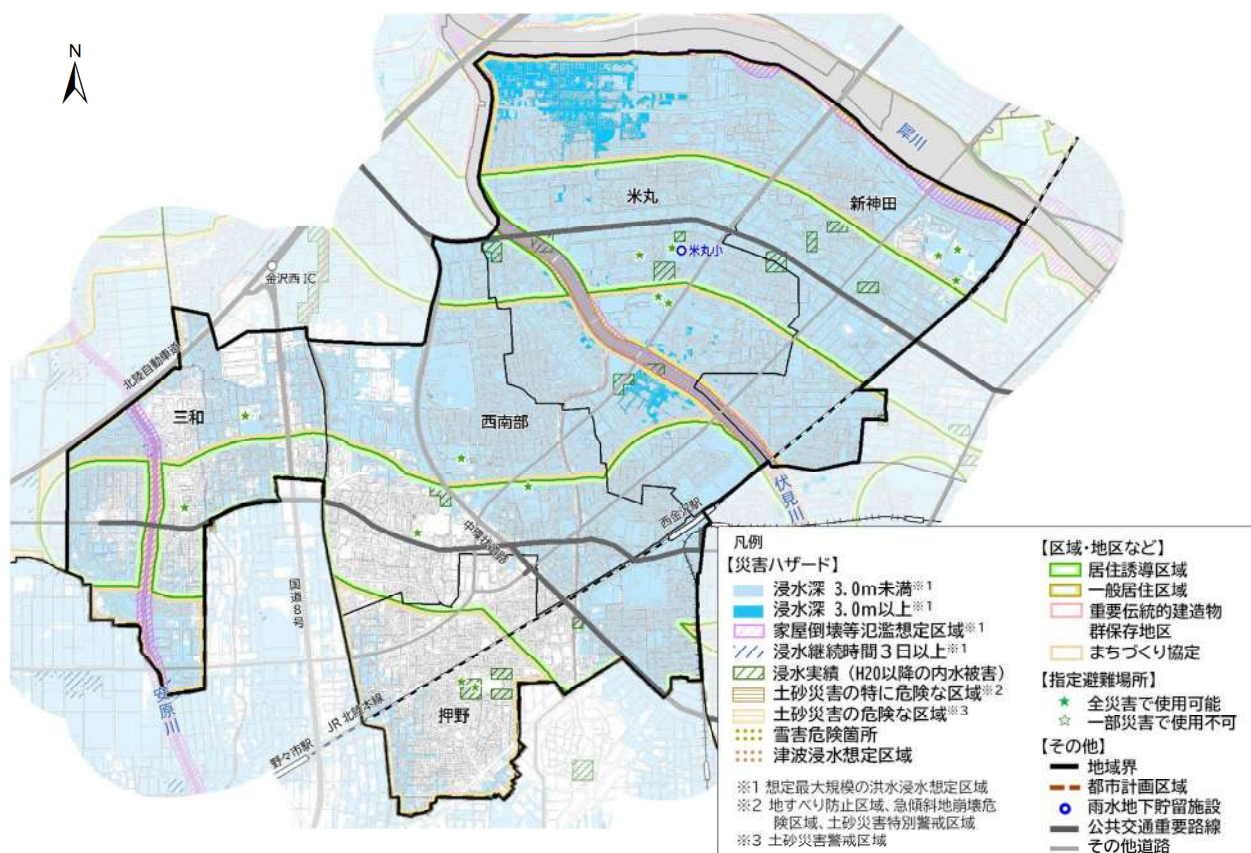
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

⑤ 西南部地域

災害リスク

西南部地域は、西金沢駅周辺が交流と賑わいを創出する地域拠点として位置づけられているほか、良好な住宅地や住宅と工業が混在する産業地区が広がっています。

一方、伏見川等の周辺ではこれまでも浸水被害が生じているほか、犀川や伏見川、安原川等の沿岸では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。そのため、これまでに犀川・伏見川等の河川整備や雨水貯留施設の整備のほか、防災訓練の継続的な実施などの取組を行ってきましたが、地区防災計画が未作成の地区があります。



災害の種類		災害リスク	
水害	外水	計画規模 (浸水深 3m 以上)	0ha
		想定最大規模 (浸水深 3m 以上)	30ha
	家屋倒壊等氾濫想定区域	23ha	
内水	浸水実績	あり	米丸校下、新神田校下、押野校下等
	土砂災害	急傾斜地崩壊危険区域	—
土砂災害	地すべり防止区域	—	
	土砂災害特別警戒区域	—	
	土砂災害警戒区域	—	
雷害	なだれ危険箇所	—	
地震	震度	6弱	全域
津波	津波浸水想定区域	—	

これまでの取組状況 (○実施済み、●未実施あり)	
ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> ○河川整備…当面の整備目標を満足 (犀川、伏見川、安原川等) ○堤防天端舗装…整備済み ○雨水貯留施設…整備済み (米丸小学校)
ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練…実施済み(継続) ●地区防災計画…3地区で作成済み (新神田、押野、西南部) ○災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、河道掘削、樹木伐採や雨水管渠の整備等のハード整備によるリスクの低減を図ります。また、残存する災害リスクに対して、防災計画の作成などのソフト対策の充実によりリスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策		実施主体		
				行政	市民	事業者
水害	○犀川や伏見川沿岸に浸水深3m以上のエリア※が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視） ○農地や緑の保全・活用、遊休農地の解消 ○緊急物資等の確保・備蓄	●	●	
	○犀川、伏見川、安原川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト	○情報把握（水位監視） ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結等	●	●	
	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	—	—	—			
雪害	○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	●
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	—	—	—			
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（2地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

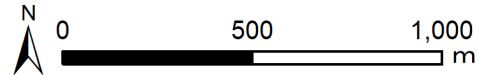
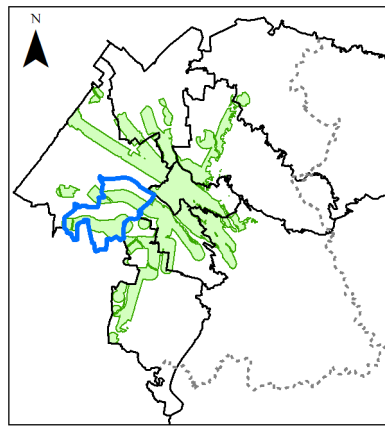
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

西南部地域

校下(地区)名：米丸・新神田・押野・西南部・三和

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



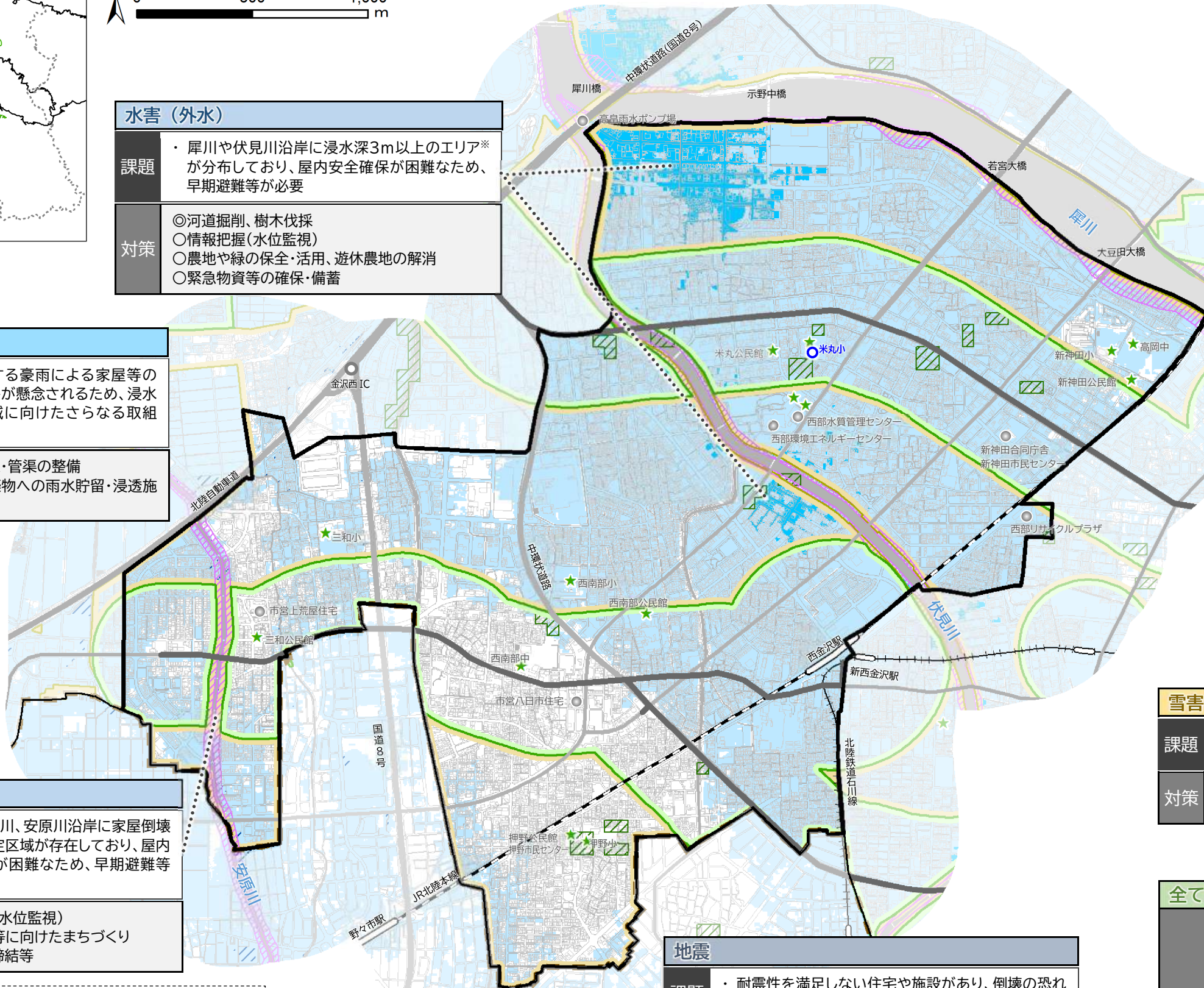
水害 (外水)	
課題	・ 犀川や伏見川沿岸に浸水深3m以上のエリア※が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	◎河道掘削、樹木伐採 ○情報把握(水位監視) ○農地や緑の保全・活用、遊休農地の解消 ○緊急物資等の確保・備蓄

水害 (内水)	
課題	・ 激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要
対策	◎雨水幹線・管渠の整備 ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

水害 (外水)	
課題	・ 犀川、伏見川、安原川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	○情報把握(水位監視) ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結等

誘導区域等に含まない区域
 ・ 土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
 ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要



凡例	
【災害ハザード】	
■	浸水深 3.0m未満※1
■	浸水深 3.0m以上※1
■	家屋倒壊等氾濫想定区域※1
///	浸水継続時間3日以上※1
■	浸水実績(H20以降の内水被害)
■	土砂災害の特に危険な区域※2
■	土砂災害の危険な区域※3
●	雪害危険箇所
●	津波浸水想定区域
※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域	
※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域	
※3 土砂災害警戒区域	
【区域・地区など】	
■	居住誘導区域
■	一般居住区域
【指定避難場所】	
★	全災害で使用可能
☆	一部災害で使用不可
【その他】	
—	地域界
—	都市計画区域
●	雨水地下貯留施設
—	公共交通重要路線
—	その他道路
【対策】	
◎	ハード対策
○	ソフト対策

雪害	
課題	・ 幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要
対策	○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

地震	
課題	・ 耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要
対策	◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進 ○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

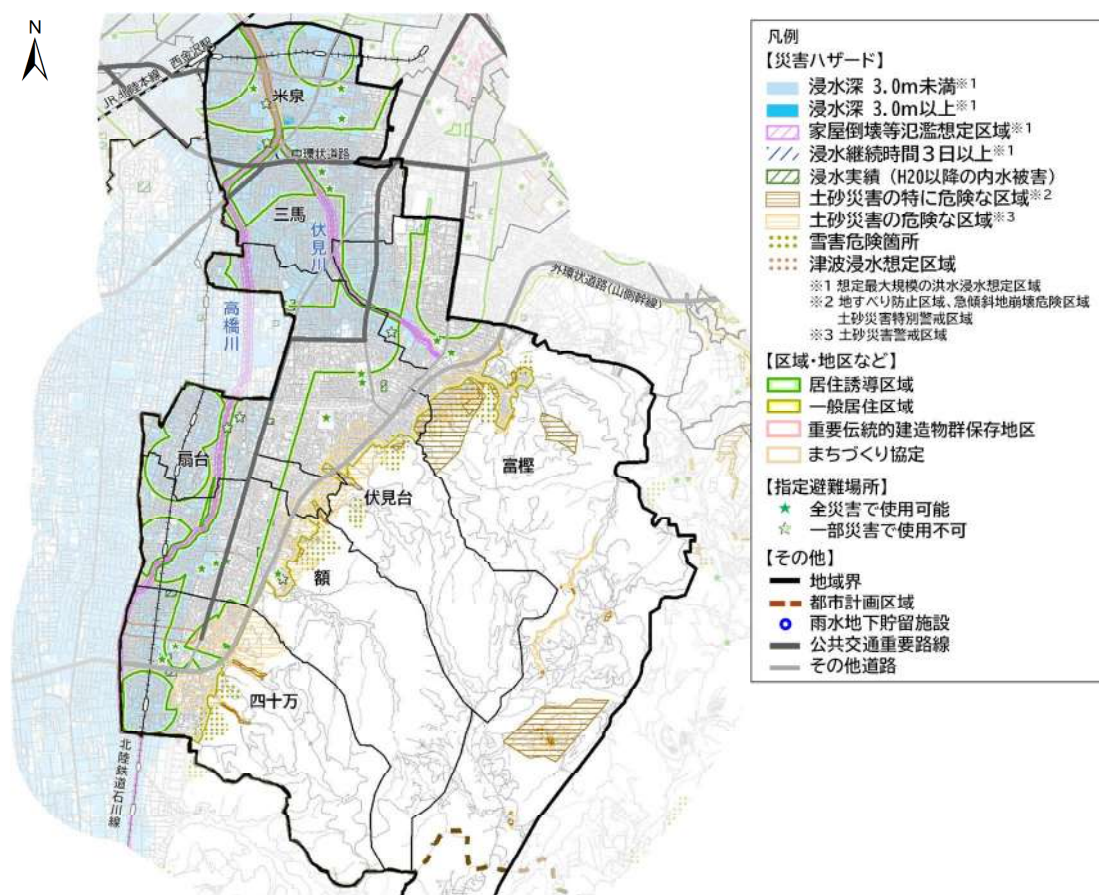
全ての災害	
対策	○災害リスクの低い区域への居住誘導 ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成(2地区) ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信

⑥ 南部地域

災害リスク

南部地域は、西金沢駅周辺が交流と賑わいを創出する地域拠点として位置づけられているほか、南部丘陵地の緑と調和した良好な住宅地が広がっています。

一方、高橋川や伏見川等の沿岸では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、南部丘陵などの斜面では土砂災害の危険エリアである地すべり防止区域や土砂災害警戒区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。そのため、これまでに伏見川等の河川整備や防災訓練の継続的な実施などの取組を行ってきましたが、高橋川・碓川等の河川整備が必要な箇所や土砂災害対策事業が必要な箇所、地区防災計画が未作成の地区があります。



災害の種類		災害リスク	
水害	外水	計画規模 (浸水深 3m 以上)	0ha
	内水	想定最大規模 (浸水深 3m 以上)	4 ha
		家屋倒壊等氾濫想定区域	37ha
土砂災害	土砂	浸水実績	あり
		急傾斜地崩壊危険区域	—
		地すべり防止区域	31ha
		土砂災害特別警戒区域	9 ha
雪害	雪害	土砂災害警戒区域	165ha
		なだれ危険箇所	あり
地震	地震	震度	6強
津波	津波	津波浸水想定区域	—

これまでの取組状況 (○実施済み、●未実施あり)	
ハード対策	●河川整備… 当面の整備目標を満足 (伏見川等) 整備中 (高橋川、碓川等)
	○堤防天端舗装…整備済み
ソフト対策	●土砂災害対策事業…整備中 (急傾斜地: 大額町、砂防: 高尾川)
	○防災訓練…実施済み(継続)
	●地区防災計画…4地区で作成済み (三馬、米泉、伏見台、額)
	○災害リスクの低い区域への居住誘導… 居住誘導区域から除外

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、河川整備や土砂災害対策事業の実施等のハード整備によるリスクの低減を図ります。また、残存する災害リスクに対して、防災計画の作成などのソフト対策の充実によりリスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策	実施主体			
			行政	市民	事業者	
水害	○伏見川沿岸に浸水深3m以上のエリア※が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○河川整備（高橋川、碓川） ○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視）	●		
	○伏見川、高橋川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト	○情報把握（水位監視） ○水害に強い防災まちづくり協定の締結 ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充	●	●	●
内水	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	○土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要（富樫、伏見台、額、四十万、扇台校下）	ハード	○土砂災害対策事業の実施（急傾斜地：大額町、砂防：高尾川）	●		
		ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討	●		
雪害	○なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要（富樫、伏見台、額、四十万校下） ○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	●
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	—	—	—			
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（3地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

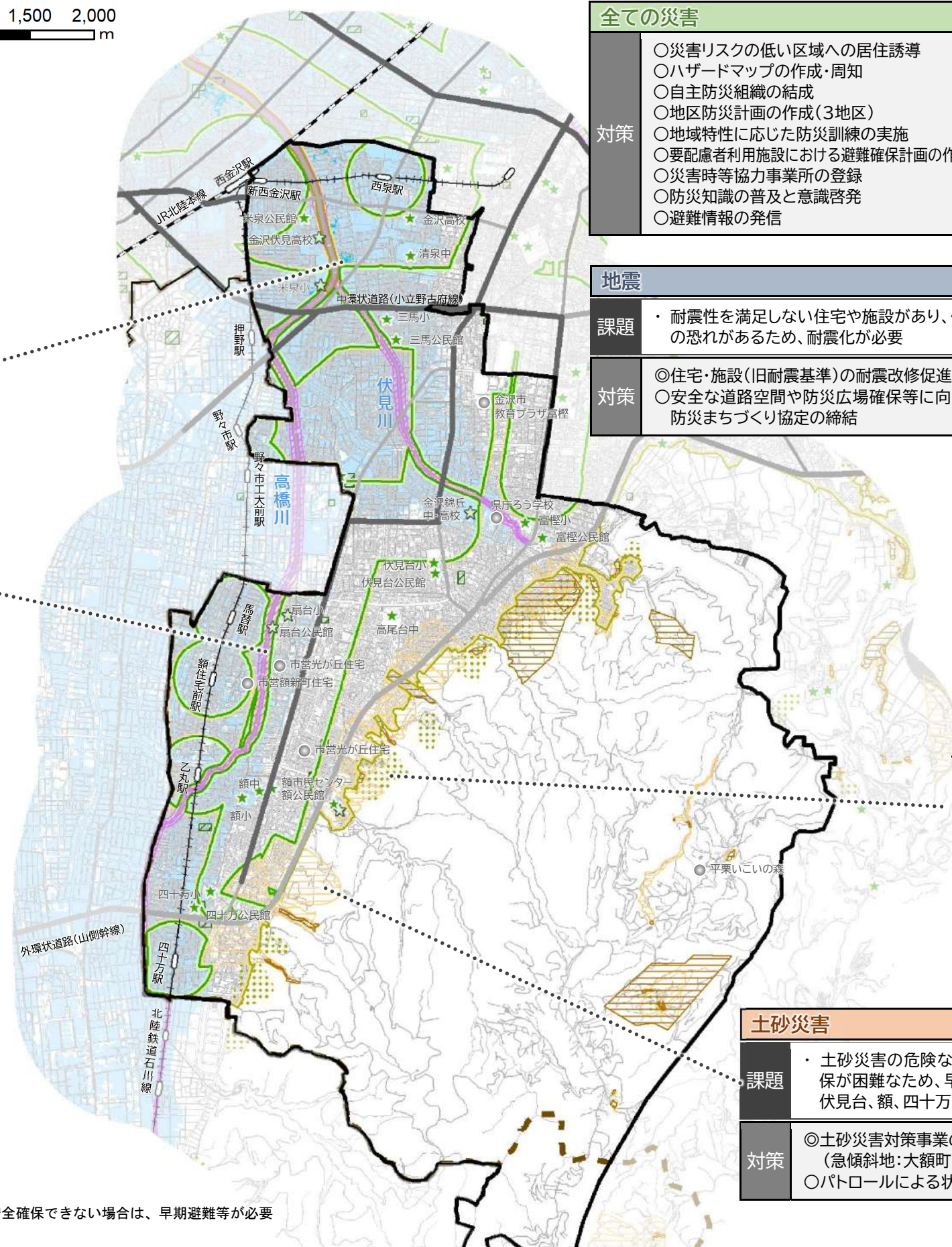
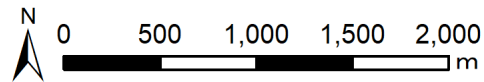
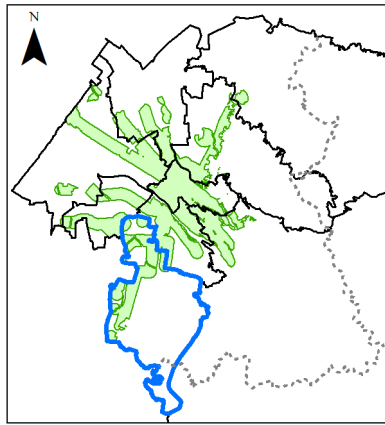
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

南部地域

校下(地区)名：三馬・米泉・富樫・伏見台・額・四十万・扇台

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



全ての災害

○災害リスクの低い区域への居住誘導
○ハザードマップの作成・周知
○自主防災組織の結成
○地区防災計画の作成(3地区)
○地域特性に応じた防災訓練の実施
○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成
○災害時等協力事業所の登録
○防災知識の普及と意識啓発
○避難情報の発信

地震

課題
・耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要

対策
◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進
○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

- 凡例**
- 【災害ハザード】**
- 浸水深 3.0m未満※1
 - 浸水深 3.0m以上※1
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域※1
 - 浸水継続時間3日以上※1
 - 浸水実績 (H20以降の内水被害)
 - 土砂災害の特に危険な区域※2
 - 土砂災害の危険な区域※3
 - 雪害危険箇所
 - 津波浸水想定区域
- ※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
※3 土砂災害警戒区域
- 【区域・地区など】**
- 居住誘導区域
 - 一般居住区域
- 【指定避難場所】**
- ★ 全災害で使用可能
 - ☆ 一部災害で使用不可
- 【その他】**
- 地域界
 - 都市計画区域
 - 雨水地下貯留施設
 - 公共交通重要路線
 - その他道路
- 【対策】**
- ◎ ハード対策
 - ソフト対策

水害(外水)

課題
・伏見川沿岸に浸水深3m以上のエリア※が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策
◎河川整備(高橋川、碓川)
◎河道掘削、樹木伐採
○情報把握(水位監視)

水害(外水)

課題
・伏見川、高橋川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策
○情報把握(水位監視)
○水害に強い防災まちづくり協定の締結
○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充

水害(内水)

課題
・激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要

対策
◎雨水幹線・管渠の整備
◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

誘導区域等に含めない区域

- ・土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域(今後も居住や都市機能を誘導する必要がある区域を除く)

※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

雪害

課題
・なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要(富樫、伏見台、額、四十万校下)
・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要

対策
○パトロールによる状況把握・対策検討
○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知
○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

土砂災害

課題
・土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要(富樫、伏見台、額、四十万、扇台校下)

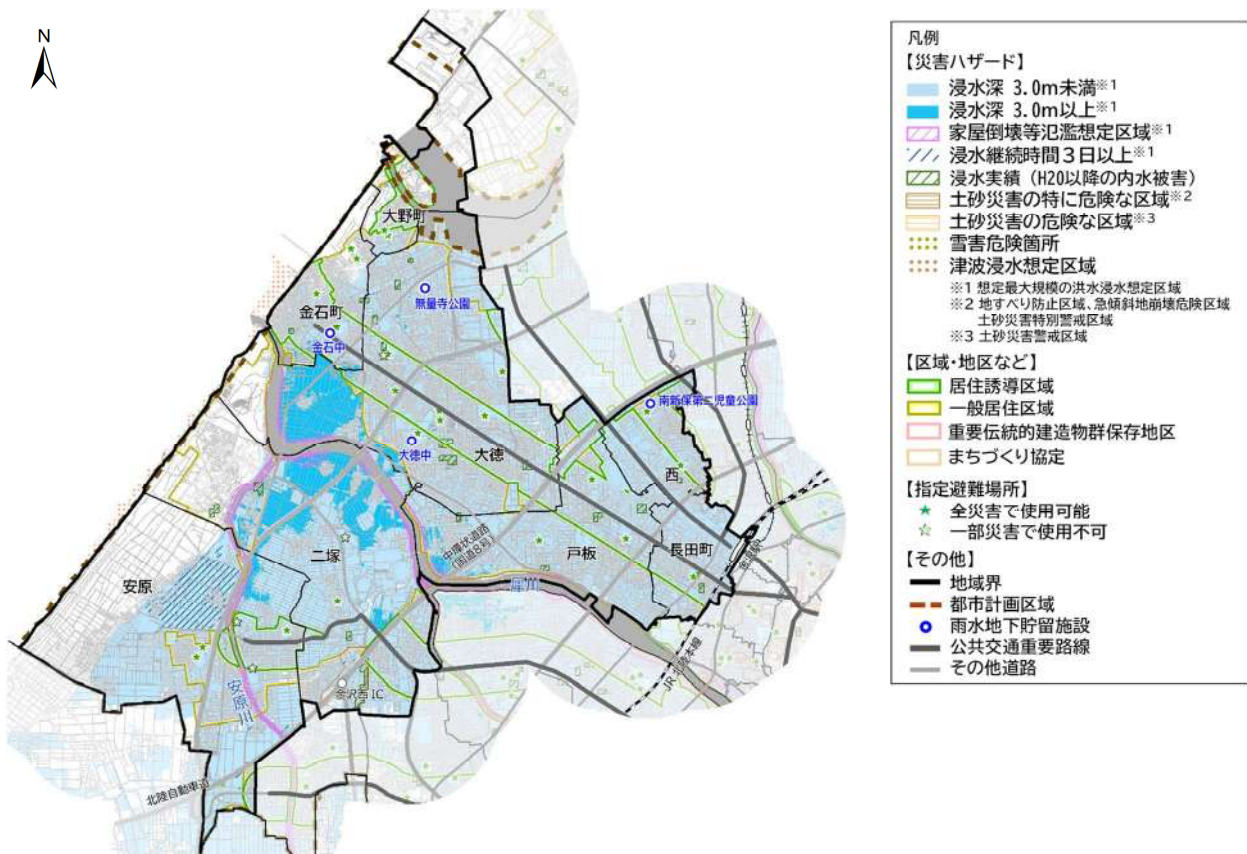
対策
◎土砂災害対策事業の実施(急傾斜地:大額町、砂防:高尾川)
○パトロールによる状況把握・対策検討

⑦ 西部地域

災害リスク

西部地域は、都市近郊の良好な田園地域と調和した住宅と工場等の産業地区が広がっているほか、物流・交流拠点である金沢港や歴史文化資産が集積する金石・大野地区が位置しています。

一方、犀川や安原川等の沿岸では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、長期間にわたり浸水が継続する区域が面的に広がっています。また、金沢港や犀川河口周辺の標高の低い箇所では津波による浸水が想定される区域が存在し、これらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。そのため、これまでに犀川・安原川等の一部河川や雨水貯留施設の整備のほか、防災訓練の継続的な実施や防災まちづくり協定の締結などの取組を行ってきましたが、木曳川等の河川整備が必要な箇所や雨水貯留施設の整備が必要な箇所、地区防災計画が未作成の地区があります。



災害の種類			災害リスク
水害	外水	計画規模（浸水深3m以上）	0ha
		想定最大規模（浸水深3m以上）	194ha
	家屋倒壊等氾濫想定区域	33ha	
内水	浸水実績	あり	二塚地区、大徳地区、戸板校下等
	急傾斜地崩壊危険区域	—	
土砂災害	地すべり防止区域	—	
	土砂災害特別警戒区域	—	
	土砂災害警戒区域	—	
雪害	なだれ危険箇所	—	
地震	震度	6強	
津波	津波浸水想定区域	あり	浸水深1~3m未満

これまでの取組状況（○実施済み、●未実施あり）	
ハード対策	●河川整備…当面の整備目標を満足（犀川、安原川等）、整備中（木曳川） ○堤防天端舗装…整備済み ●雨水貯留施設…整備済み（金石中学校、無量寺公園、南新保第二児童公園） 整備中（大徳中学校）
	○防災訓練…実施済み（継続） ●地区防災計画…4地区で作成済み（長田町、西、大徳、金石町） ○防災まちづくり協定…金石西地区で締結済み ○災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、河川整備や雨水貯留施設の整備等のハード整備によるリスクの低減を図ります。また、残存する災害リスクに対して、防災計画の作成などのソフト対策の充実によりリスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策	実施主体			
			行政	市民	事業者	
水害	○犀川、安原川沿岸に浸水深3m以上のエリア*や浸水継続時間が3日以上エリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○河川整備（犀川、安原川、木曳川） ○河道掘削、樹木伐採 ○老朽化対策（新大徳川防潮水門）	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視） ○農地や緑の保全・活用、遊休農地の解消 ○緊急物資等の確保・備蓄	●	●	
	○犀川、安原川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト	○情報把握（水位監視） ○水害に強い防災まちづくり協定の締結・内容拡充 ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充	●	●	
	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○雨水貯留施設の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●		●
土砂災害	-	-	-	-	-	
雪害	○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	○金沢港や犀川河口周辺の標高の低い箇所浸水エリアがあり、家屋等の浸水被害が懸念され、浸水被害の低減への取組が必要	ソフト	○情報把握（水位監視）	●		
全ての災害	-	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（4地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

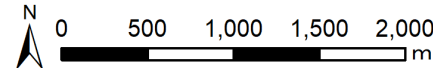
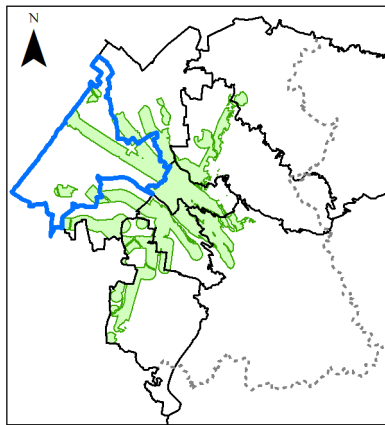
*浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

西部地域

校下(地区)名：長田町・戸板・西・二塚・安原・大徳・金石町・大野町

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



水害(内水)

課題
・激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要

- 対策
◎雨水幹線・管渠の整備
◎雨水貯留施設の整備
◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

津波

課題
・金沢港や犀川河口周辺の標高の低い箇所等で浸水エリアがあり、家屋等の浸水被害が懸念され、浸水被害の低減への取組が必要

- 対策
○情報把握(水位監視)

水害(外水)

課題
・犀川、安原川沿岸に浸水深3m以上のエリア※や浸水継続時間が3日以上※のエリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

- 対策
◎河川整備(犀川、安原川、木曳川)
◎老朽化対策(新大徳川防潮水門)
◎河道掘削、樹木伐採
○情報把握(水位監視)
○農地や緑の保全・活用、遊休農地の解消
○緊急物資等の確保・備蓄

水害(外水)

課題
・犀川、安原川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

- 対策
○情報把握(水位監視)
○水害に強い防災まちづくり協定の締結・内容拡充
○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結・内容拡充

凡例

【災害ハザード】

- 浸水深 3.0m未満※1
- 浸水深 3.0m以上※1
- 家屋倒壊等氾濫想定区域※1
- 浸水継続時間3日以上※1
- 浸水実績(H20以降の内水被害)
- 土砂災害の特に危険な区域※2
- 土砂災害の危険な区域※3
- 雪害危険箇所
- 津波浸水想定区域

※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
※3 土砂災害警戒区域

【区域・地区など】

- 居住誘導区域
- 一般居住区域

【指定避難場所】

- 全災害で使用可能
- 一部災害で使用不可

【その他】

- 地域界
- 都市計画区域
- 雨水地下貯留施設
- 公共交通重要路線
- その他道路

【対策】

- ◎ ハード対策
- ソフト対策

雪害

課題
・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要

- 対策
○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知
○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

全ての災害

- 対策
- 災害リスクの低い区域への居住誘導
 - ハザードマップの作成・周知
 - 自主防災組織の結成
 - 地区防災計画の作成(4地区)
 - 地域特性に応じた防災訓練の実施
 - 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成
 - 災害時等協力事業所の登録
 - 防災知識の普及と意識啓発
 - 避難情報の発信

地震

課題
・耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要

- 対策
◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進
○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

誘導区域等に含まない区域
・土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
・家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

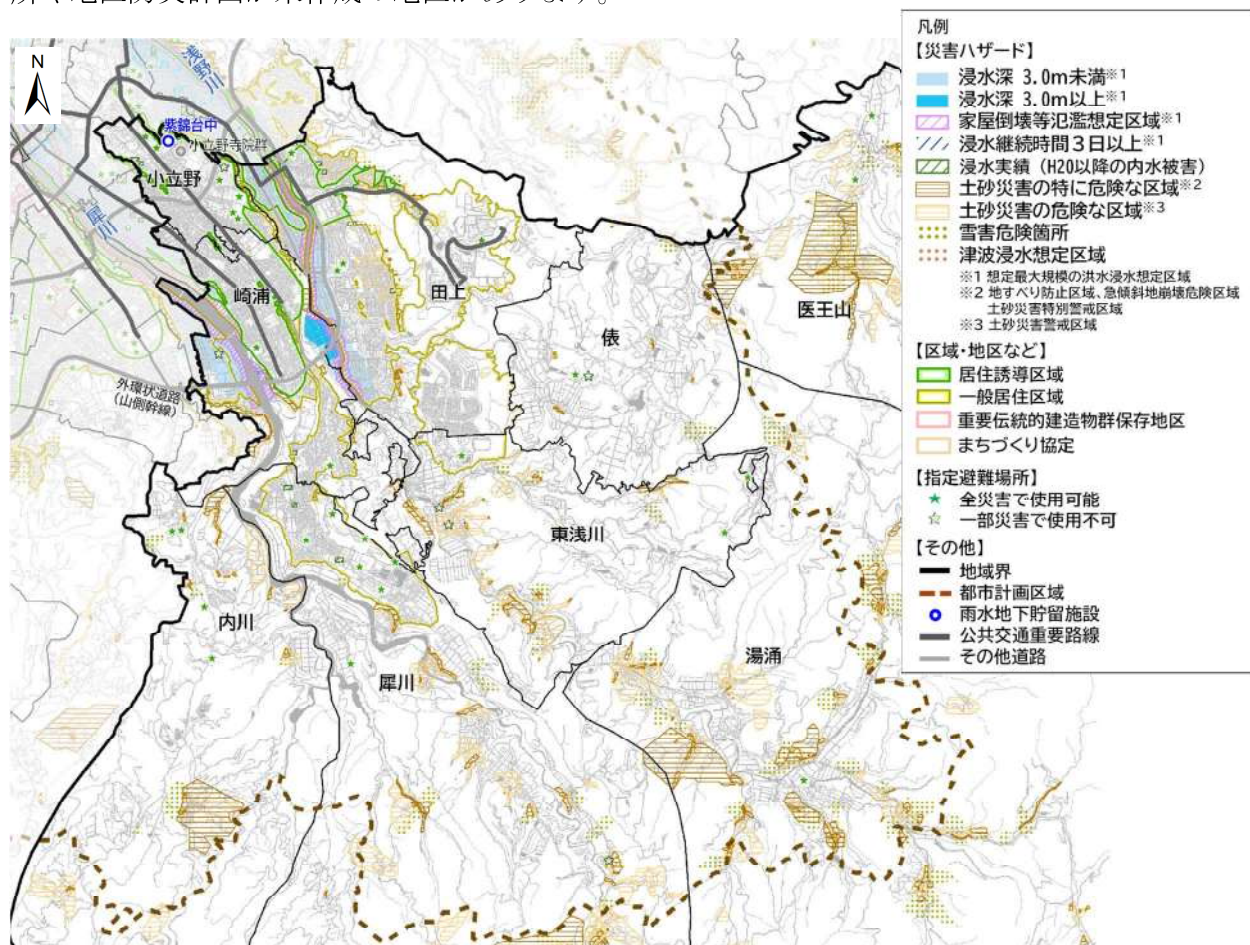
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

⑧ 東部地域

災害リスク

東部地域は、小立野寺院群等の歴史文化資産が集積する中心市街地地区の一部に位置するとともに、中山間地域には温泉などの特徴ある地域資源を有する地域です。

一方、犀川や浅野川沿岸では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、奥卯辰山や医王山周辺では土砂災害の危険エリアである地すべり防止区域や土砂災害警戒区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。そのため、犀川・浅野川の河川整備や雨水貯留施設の整備のほか、防災訓練の継続的な実施などの取組を行ってきましたが、土砂災害対策事業が必要な箇所や地区防災計画が未作成の地区があります。



災害の種類		災害リスク
水害	外水	計画規模（浸水深3m以上） 0ha 想定最大規模（浸水深3m以上） 16ha 家屋倒壊等氾濫想定区域 56ha
	内水	浸水実績 あり 小立野校下、犀川校下等
	土砂災害	急傾斜地崩壊危険区域 26ha 地すべり防止区域 97ha 土砂災害特別警戒区域 102ha 土砂災害警戒区域 641ha
雪害	なだれ危険箇所 あり	奥卯辰山周辺 医王山周辺等
地震	震度 7	依
津波	津波浸水想定区域	—

これまでの取組状況（○実施済み、●未実施あり）	
ハード対策	○河川整備…整備済み（犀川・浅野川等） ○堤防天端舗装…整備済み ○雨水貯留施設…整備済み（紫錦台中学校） ●土砂災害対策事業…整備中（砂防：田上川、上中川、袋板屋川） 整備予定（急傾斜地：東兼六町）
	○防災訓練…実施済み（継続） ●地区防災計画…5地区で作成済み（崎浦、犀川、湯涌、東浅川、医王山） ○災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、土砂災害に対する土砂災害対策事業の実施等のハード整備によるリスクの低減を図ります。残存する災害リスクに対して、防災計画の作成などのソフト対策の充実によりリスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策	実施主体		
			行政	市民	事業者
水害	○浅野川左岸に浸水深3m以上のエリア※が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード ○老朽化対策（浅野川放水路取水門） ○管理用通路の整備 ○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト ○情報把握（水位監視） ○農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消 ○森林・里山の整備・保全 ○ダム の 事前放流	●	●	
	○犀川、浅野川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ソフト ○情報把握（水位監視） ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結等	●	●	
	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード ○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●	●
土砂災害	○土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要（崎浦、田上、医王山等の全校下）	ハード ○土砂災害対策事業の実施（急傾斜地：東兼六町、砂防：田上川、上中川、袋板屋川）	●		
		ソフト ○パトロールによる状況把握・対策検討	●		
雪害	○なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要（内川、犀川、湯涌等の全校下） ○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト ○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	●
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要	ハード ○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト ○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結	●	●	
津波	—	—			
全ての災害	—	ソフト ○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（4地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

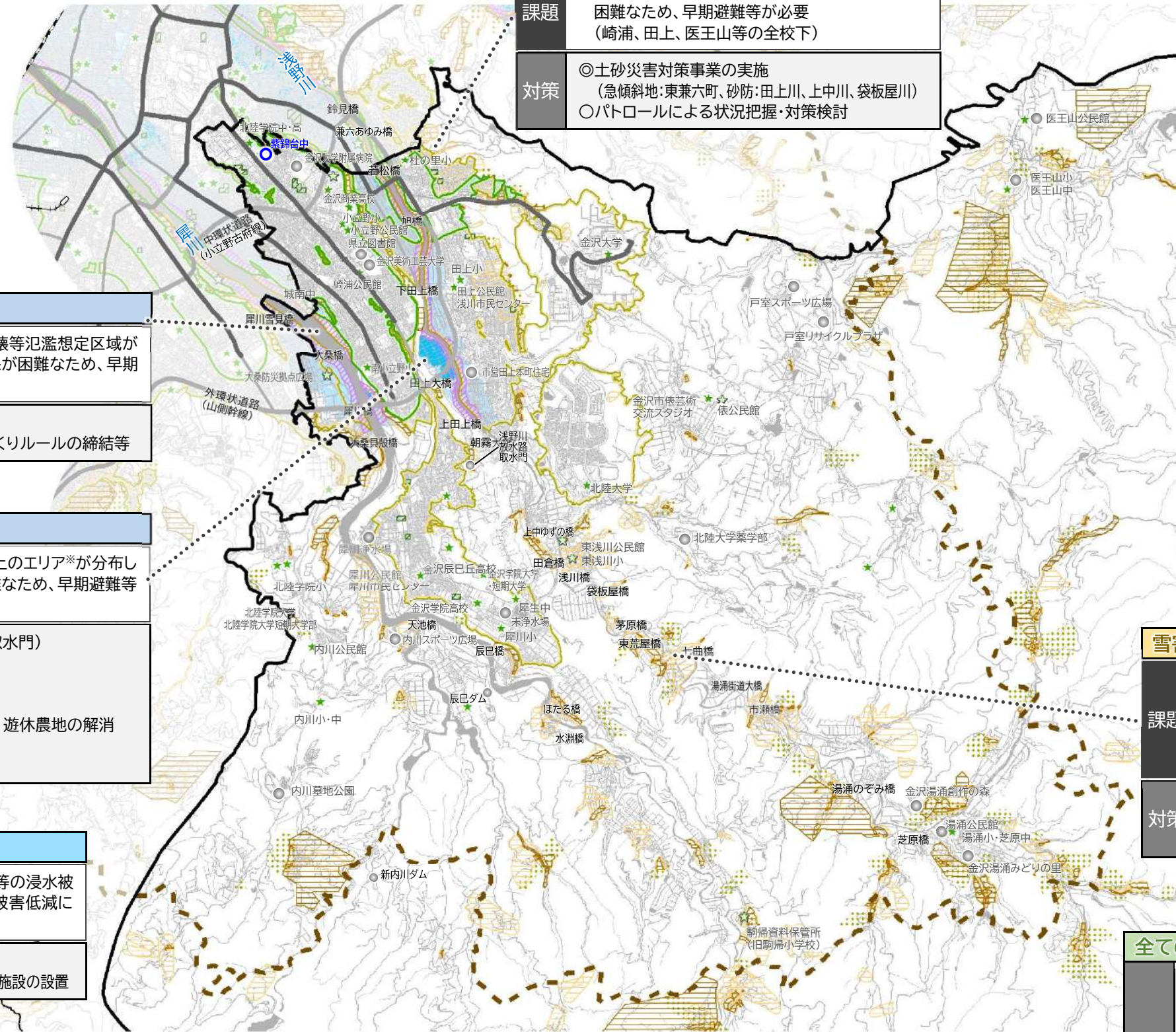
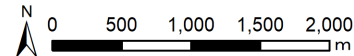
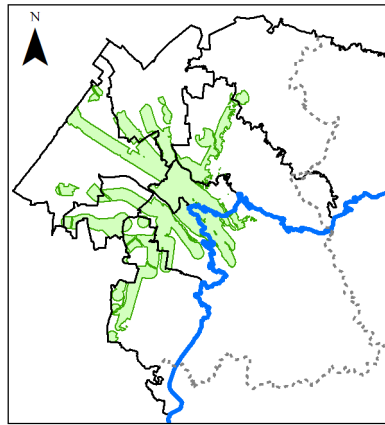
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

東部地域

校下(地区) 名: 小立野・崎浦・内川・犀川・湯涌・田上・東浅川・俵・医王山

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



土砂災害

課題

- 土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要(崎浦、田上、医王山等の全校下)

対策

- ◎土砂災害対策事業の実施(急傾斜地:東兼六町、砂防:田上川、上中川、袋板屋川)
- パトロールによる状況把握・対策検討

水害(外水)

課題

- 犀川、浅野川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策

- 情報把握(水位監視)
- 早期避難等に向けたまちづくりルールの締結等

水害(外水)

課題

- 浅野川左岸に浸水深3m以上のエリア*が分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要

対策

- ◎老朽化対策(浅野川放水路取水門)
- ◎管理用通路の整備
- ◎河道掘削、樹木伐採
- 情報把握(水位監視)
- 農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消
- 森林・里山の整備・保全
- ダムでの事前放流

水害(内水)

課題

- 激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要

対策

- ◎雨水幹線・管渠の整備
- ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

誘導区域等に含まない区域

- 土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
- 家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

*浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

地震

課題

- 耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要

対策

- ◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進
- 安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結

凡例

【災害ハザード】

- 浸水深 3.0m未満※1
- 浸水深 3.0m以上※1
- 家屋倒壊等氾濫想定区域※1
- 浸水継続時間3日以上※1
- 浸水実績(H20以降の内水被害)
- 土砂災害の特に危険な区域※2
- 土砂災害の危険な区域※3
- 雪害危険箇所
- 津波浸水想定区域

※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
 ※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
 ※3 土砂災害警戒区域

【区域・地区など】

- 居住誘導区域
- 一般居住区域

【指定避難場所】

- ★ 全災害で使用可能
- ☆ 一部災害で使用不可

【その他】

- 地域界
- 都市計画区域
- 雨水地下貯留施設
- 公共交通重要路線
- その他道路

【対策】

- ◎ ハード対策
- ソフト対策

雪害

課題

- なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要(内川、犀川、湯涌等の全校下)
- 幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要

対策

- パトロールによる状況把握・対策検討
- 道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知
- 防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

全ての災害

対策

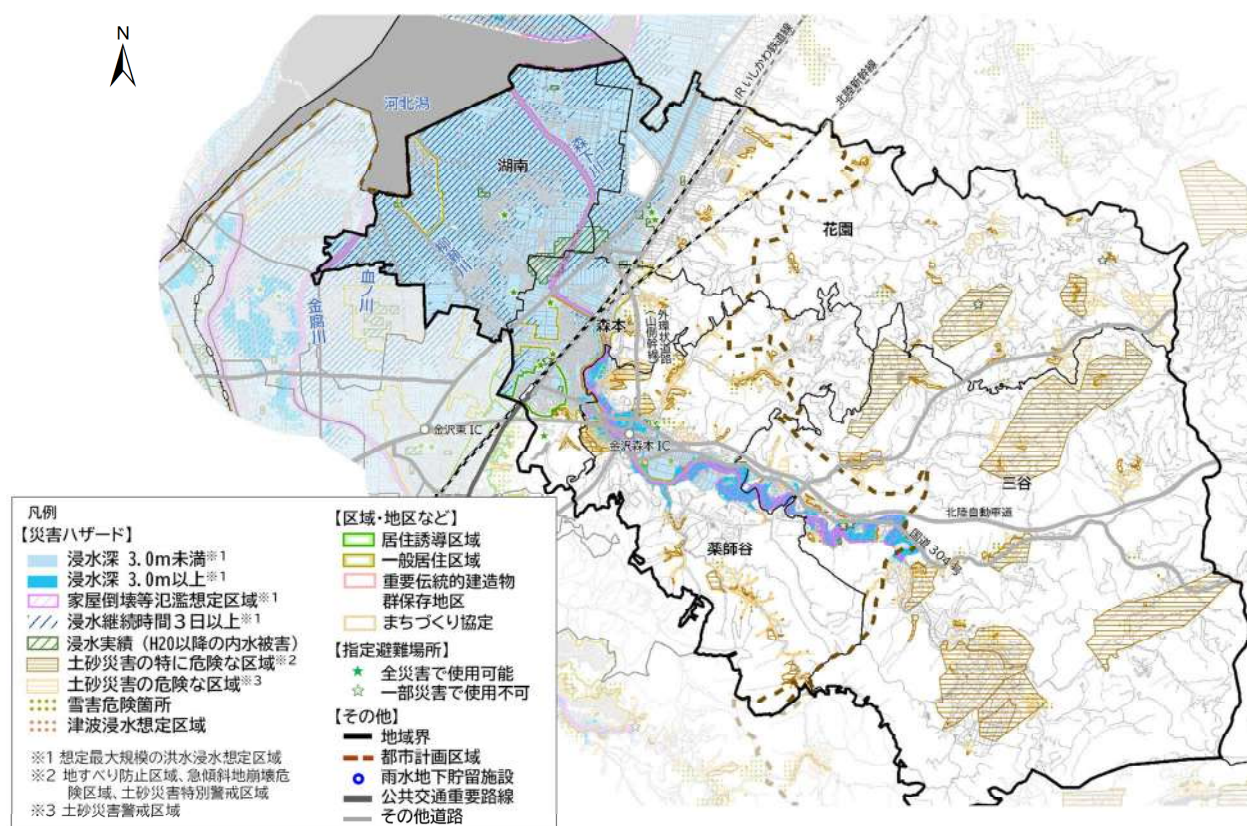
- 災害リスクの低い区域への居住誘導
- ハザードマップの作成・周知
- 自主防災組織の結成
- 地区防災計画の作成(4地区)
- 地域特性に応じた防災訓練の実施
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成
- 災害時等協力事業所の登録
- 防災知識の普及と意識啓発
- 避難情報の発信

⑨ 北部地域

災害リスク

北部地域は、森本駅周辺が交流と賑わいを創出する地域拠点として位置づけられ、交通利便性を活かした産業が集積するとともに、緑豊かな田園環境や中山間地域が広がっています。

一方、森下川等の沿岸では想定最大規模における浸水深3m以上の区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が存在するほか、中山間地域では土砂災害の危険エリアである地すべり防止区域や土砂災害警戒区域が存在し、それらの区域に住宅や各種施設が立地していることから、リスクの低減が必要となっています。そのため、これまでに土砂災害対策事業の実施や防災訓練の継続的な実施などの取組を行ってきましたが、森下川・柳瀬川等の河川整備が必要な箇所や地区防災計画が未作成の地区があります。



災害の種類			災害リスク
水害	外水	計画規模（浸水深3m以上）	1ha
		想定最大規模（浸水深3m以上）	98ha
	内水	家屋倒壊等氾濫想定区域	54ha
土砂災害	内水	浸水実績	あり
		急傾斜地崩壊危険区域	1ha
		地すべり防止区域	250ha
		土砂災害特別警戒区域	54ha
雪害	内水	土砂災害警戒区域	367ha
		なだれ危険箇所	あり
地震	震度	6強	全域
津波	津波浸水想定区域	あり	浸水深1~3m未満（河北潟干拓地）

これまでの取組状況（○実施済み、●未実施あり）	
ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> ●河川整備…当面の整備目標を満足（柳瀬川等）、整備中（森下川） ○堤防天端舗装…整備済み ○土砂災害対策事業…整備済み
ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練…実施済み（継続） ●地区防災計画…4地区で作成済み（花園、湖南、薬師谷、三谷） ○災害リスクの低い区域への居住誘導…居住誘導区域から除外

取組の方向性

災害リスクの低い区域への居住誘導を図るとともに、河川整備等のハード整備によるリスクの低減を図ります。また、残存する災害リスクに対して、防災計画の作成などのソフト対策の充実によりリスク低減を図ります。

具体的な取組

災害の種類	課題	防災・減災対策	実施主体			
			行政	市民	事業者	
水害	○森下川上流部に浸水深3m以上のエリア※があり、下流部には浸水継続時間が3日以上エリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要	ハード	○河川整備（森下川、柳瀬川） ○河道掘削、樹木伐採	●		
		ソフト	○情報把握（水位監視） ○農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消 ○緊急物資等の確保・備蓄	●	●	
		ソフト	○情報把握（水位監視） ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結等	●	●	
	内水	○激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要	ハード	○雨水幹線・管渠の整備 ○民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置	●	●
土砂災害	○土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要（森本、花園、薬師谷、三谷地区）	ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討	●		
雪害	○なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要（森本、花園、薬師谷、三谷地区） ○幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要	ソフト	○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保	●	●	●
地震	○耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要 ○ため池が決壊し、浸水被害が懸念され、浸水被害の低減への取組が必要	ハード	○住宅・施設（旧耐震基準）の耐震改修促進	●	●	
		ソフト	○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結 ○パトロールによる状況把握・対策検討	●	●	
津波	（河北潟干拓地のみ）	—	—			
全ての災害	—	ソフト	○災害リスクの低い区域への居住誘導（居住誘導区域から除外） ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成（1地区） ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信	●	●	●

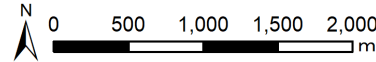
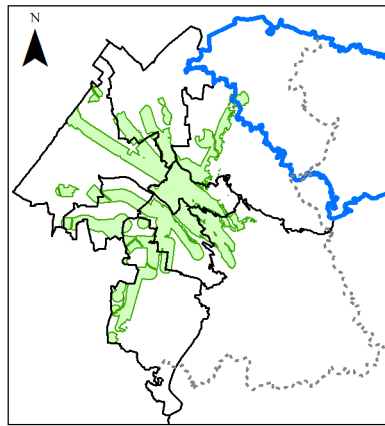
※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

北部地域

校下(地区)名：森本・花園・湖南・薬師谷・三谷

災害の種類

- 水害(外水) 水害(内水) 津波 土砂災害 地震 雪害



水害(内水)	
課題	・激甚化する豪雨による家屋等の浸水被害が懸念されるため、浸水被害低減に向けたさらなる取組が必要
対策	◎雨水幹線・管渠の整備 ◎民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置

雪害	
課題	・なだれ危険箇所が存在し、なだれの発生が懸念されるため、警戒が必要(森本、花園、薬師谷、三谷地区) ・幹線道路や市街地の道路に積雪等による交通障害が懸念され、除雪体制の強化が必要
対策	○パトロールによる状況把握・対策検討 ○道路除雪の計画的な実施・除雪マナー・ルールの周知 ○防災広場や空き地等を活用した排雪場の確保

凡例

【災害ハザード】

- 浸水深 3.0m未満※1
- 浸水深 3.0m以上※1
- 家屋倒壊等氾濫想定区域※1
- 浸水継続時間3日以上※1
- 浸水実績(H20以降の内水被害)
- 土砂災害の特に危険な区域※2
- 土砂災害の危険な区域※3
- 雪害危険箇所
- 津波浸水想定区域

※1 想定最大規模の洪水浸水想定区域
※2 地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域
※3 土砂災害警戒区域

【区域・地区など】

- 居住誘導区域
- 一般居住区域

【指定避難場所】

- 全災害で使用可能
- 一部災害で使用不可

【その他】

- 地域界
- 都市計画区域
- 雨水地下貯留施設
- 公共交通重要路線
- その他道路

【対策】

- ◎ ハード対策
- ソフト対策

水害(外水)	
課題	・森下川下流部には浸水継続時間が3日以上※のエリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	○緊急物資等の確保・備蓄

水害(外水)	
課題	・森下川上流部に浸水深3m以上のエリアが分布しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	◎河川整備(森下川、柳瀬川) ◎河道掘削、樹木伐採 ○情報把握(水位監視) ○農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消

水害(外水)	
課題	・森下川沿岸に家屋倒壊等氾濫想定区域が存在しており、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要
対策	○情報把握(水位監視) ○早期避難等に向けたまちづくりルールの締結等

地震	
課題	・耐震性を満足しない住宅や施設があり、倒壊の恐れがあるため、耐震化が必要 ・ため池が決壊し、浸水被害が懸念され、浸水被害の低減への取組が必要
対策	◎住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進 ○安全な道路空間や防災広場確保等に向けた防災まちづくり協定の締結 ○パトロールによる状況把握・対策検討

土砂災害	
課題	・土砂災害の危険な区域があり、屋内安全確保が困難なため、早期避難等が必要(森本、花園、薬師谷、三谷地区)
対策	○パトロールによる状況把握・対策検討

全ての災害	
対策	○災害リスクの低い区域への居住誘導 ○ハザードマップの作成・周知 ○自主防災組織の結成 ○地区防災計画の作成(1地区) ○地域特性に応じた防災訓練の実施 ○要配慮者利用施設における避難確保計画の作成 ○災害時等協力事業所の登録 ○防災知識の普及と意識啓発 ○避難情報の発信

誘導区域等に含まない区域

- 土砂災害の特に危険な区域・土砂災害の危険な区域(地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)
- 家屋倒壊等氾濫想定区域(中心市街地やまちなか区域等を除く)

※浸水深3m未満のエリアについては、屋内安全確保の他、自宅等で安全確保できない場合は、早期避難等が必要

3) 実施主体別の取組内容

各地域における取組の推進にあたっては、行政・市民・事業者がそれぞれの役割を認識し、協力・連携しながら計画的に展開することが重要です。そのため、実施主体別の取組内容を下記の通り示します。なお、各取組については、関連計画において進捗管理を行います。

<行政>

取組内容	スケジュールや目標値等
水 害 [関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・流域治水プロジェクト(犀川水系/大野川水系) ・金沢市総合治水対策実施計画 ・金沢市地域防災計画
河川整備	浸水被害の恐れのある家屋のうち安全が確保される割合 62%(2021年)→73%(2026年) ※いしかわの土木 2022
河川管理施設の老朽化対策	長寿命化計画に基づき施設更新を継続
管理用通路等の整備	短期整備(5年程度) ※犀川、浅野川
河道掘削、樹木伐採	流下能力を確保するため継続して実施
雨水幹線・管渠の整備	雨水管渠の整備率 55.4%(2018年)→60%(2028年) ※総合治水対策実施計画
雨水貯留施設の整備	中長期的な整備に向け、新たな適地を選定
情報把握(水位監視)	適切な避難情報の発信に向け、継続して実施
ダムの事前放流	洪水被害の防止・軽減を図るため、継続して実施
土砂災害 [関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県土砂災害対策アクションプログラム
土砂災害対策事業の実施 (急傾斜地、砂防)	土砂災害から保全される要配慮者利用施設の割合 62%(2021年)→75%(2026年) ※いしかわの土木 2022
地 震 [関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢方式無電柱化推進実施計画
無電柱化の推進	計画路線における無電柱化率 16%(2023年)→30%(2033年)
全ての災害^{※1} [関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市集約都市形成計画 ・金沢市地域防災計画
災害リスクの低い区域への居住誘導	長期的に緩やかに居住を誘導
ハザードマップ等の作成・周知	全地区で作成済み(水害/土砂災害/津波) 周知活動は継続して実施
パトロールの実施	構造物の変状及びがけ崩れ等の前兆現象を 事前に把握するため、継続して実施
避難情報の発信	迅速な避難に向け、継続して実施

※1 全ての災害 : 水害、土砂災害、地震、津波、雪害

<行政・市民>

取組内容		スケジュールや目標値等
水 害	[関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・流域治水プロジェクト(犀川水系/大野川水系) ・金沢市総合治水対策実施計画
農地や緑・里山の保全・活用、遊休農地の解消		洪水被害の防止・軽減を図るため、継続して実施
地 震	[関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次金沢市建築物耐震改修促進計画
住宅・施設(旧耐震基準)の耐震改修促進		耐震化率 ①住宅 91.0%(2021年)→95.0%(2026年) ②多数の者が利用する建築物 93.1%(2021年)→95.0%(2026年)
雪 害	[関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・道路除雪計画
道路除雪の計画的な実施、除雪マナー・ルールの周知		冬期間の道路交通網を確保するため、継続して実施
全ての災害^{※1}	[関連計画]	<ul style="list-style-type: none"> ・重要伝統的建造物群保存地区防災計画 ・防災まちづくり協定 ・金沢市地域防災計画
重要伝統的建造物群保存地区の防災対策の充実		水害対策等の内容拡充
防災道路整備等に関する防災まちづくり計画の作成		地域に応じた計画の作成に向け、協定等を締結
防災知識の普及と意識啓発		自宅の災害ハザードを認識している市民の割合 ^{※2} 67.8%(2022年)→100%(2028年)
空き地等を活用した避難場所等の確保		避難場所等の確保に向け、協定等を締結

※1 全ての災害 : 水害、土砂災害、地震、津波、雪害

※2 防災意識Eモニターによる調査(調査方法および対象については、別途検討予定)
災害ハザード: 洪水、津波、土砂災害

＜市民＞

取組内容		スケジュールや目標値等
地震	〔関連計画〕	・第3次金沢市建築物耐震改修促進計画
家具の転倒防止等の減災化の促進		被害の防止・軽減を図るため、継続して実施
雪害	〔関連計画〕	・防災まちづくり協定等
防災広場や空き地等を活用した 排雪場の確保		排雪場の確保に向け、協定等を締結
全ての災害※1	〔関連計画〕	・金沢市地域防災計画 ・金沢市における自主防災組織活動指針 ・まちづくり協定
ハザードマップ等の活用		発災時の安全かつスムーズな避難行動 に繋げるため、継続して実施
地区防災計画の作成・更新		地区防災計画の作成地区数 ※全62地区 39地区(2023年)→62地区(2028年)
地区に応じたまちづくりのルール の拡充		迅速な避難に向け、協定等を締結
地域特性に応じた防災訓練の実施		発災時の避難、救助、避難所運営を 適切に行うため、継続して実施

※1 全ての災害 : 水害、土砂災害、地震、津波、雪害

＜市民・事業者＞

取組内容		スケジュールや目標値等
水害	〔関連計画〕	・金沢市総合治水対策実施計画
民間建築物への雨水貯留・浸透施設の設置		浸水被害の軽減を図るため、継続して実施

＜事業者＞

取組内容		スケジュールや目標値等
水害 土砂災害	〔関連計画〕	・金沢市総合治水対策実施計画 ・石川県土砂災害対策アクションプログラム
要配慮者利用施設における 避難体制の強化・避難確保計画の作成		継続実施(全施設作成済み)